NACSIS-CAT/ILL 参加館状況調査

アンケート結果報告書

(平成 23 年 3 月調査)

―アンケート基礎集計―

国立情報学研究所

学術基盤推進部　学術コンテンツ課

(平成 24 年 3 月 15 日修正)

－目次－

第１章　アンケートの実施概要.....2
第１項　アンケート実施の目的（総論）.....2
第２項　アンケートの実施規模と回収実績.....2
第２章　アンケート基礎集計.....9
第１項　全般について.....9
第２項　目録.....14
第３項　ILLについて.....27
第４項　NACSIS-CAT/ILLに係る研修について.....32
第５項　電子情報資源の管理・提供方法について.....35
第６項　自由記述.....41
第３章　記述式回答結果.....42

第１章　アンケートの実施概要

第１項　アンケート実施の目的（総論）

国立情報学研究所では、全国の大学図書館や研究機関等が所蔵する資料の書誌情報と所在情報をデータベース化した目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）を提供している。NACSIS-CAT/ILL は、総合目録をオンライン共同分担目録方式により形成するシステム（CAT）と、データベースを利用して各図書館が自館で所蔵していない資料を相互に提供する図書館間相互協力のシステム（ILL）から構成されている。

サービスを開始した 1985 年以来約 25 年が経過し、その間に書誌件数は 1,000 万件、所蔵件数は 1 億件と順調に規模を拡大してきた。当初の参加館は国立大学附属図書館を中心としていたが、現在では、私立・公立大学および短期大学・研究機関等、様々な設置主体かつ様々な規模の参加館に利用されている。この間に図書館をめぐる情報環境も大きく変化してきている。このような①サービス規模拡大、②多様な参加館の参加、③情報環境の変化に伴って、運用体制の抜本的な見直しに向けて検討を行うことが、学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会次世代目録ワーキンググループによる『次世代目録所在サービスの在り方について（最終報告）』（平成 21 年 3 月発行　http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf ）で求められている。

本研究所では、報告書の提言を受け、参加館の利用実態、事業への取り組みの考え方、直面している課題を把握し、今後のサービスの方向性を検討することを目的に本アンケートを実施した。

アンケートの構成は以下の 6 項目を骨子とし、それぞれに詳細な質問で構成されている。結果として全体から細部まで幅広く把握できる内容となった。

- NACSIS-CAT/ILL に関する全般質問
- 目録に関する質問
- ILL に関する質問
- NACSIS-CAT/ILL に係る研修についての質問
- 電子情報資源の管理・提供方法についての質問
- 全般的な意見の吸収

第２項　アンケートの実施規模と回収実績

アンケートの配布は、NACSIS-CAT/ILL に参加する国内の参加館に対して行われた。海外の参加館および非オンライン館（雑誌所蔵登録のみの限定的なサービスを利用している館）は除外している。これらの参加館は図書館室単位での総数は 1,454 館であり、機関単位では 1,024 機関となっている。アンケートの回答期間は、平成 23 年

3 月 8 日～3 月 22 日を当初設定していたが、東日本大震災の影響があり、回答期間を平成 23 年 6 月 30 日まで延長して受け付けた。

アンケートの回収数は参加館の数でみると 854 館で回収率は 58.7%、機関の数でみると 616 機関である（表 1-1）。

単純に回収率だけみると回収率が低いようにも見えるが、NACSIS-CATの新規書誌登録(平成 21 年度)から本アンケートの回収率をみてみると、新規書誌登録の約 38.3%を占めるA規模大学は回収率 100%、新規書誌登録の約 13.3%を占めるB規模大学に関して回収率84.1%、新規書誌登録の約20.3%を占めるC規模大学に関して回収率81.6%、新規書誌登録の約 12.2%を占めるD規模大学に関して回収率 81.4%で、年間の新規書誌作成数の 86%を占める参加機関から回答を得ている（表 1-2）。

またNACSIS-ILL(平成 22 年度実績)での文献複写受付規模に対する本アンケートの回収率をみてみると、全体の 32.2%を占めるA規模大学に関して回収率 100%、17.8%を占めるB規模大学に関して回収率 89.1%、30.0%を占めるC規模大学に関して回収率 72.0%、15.5%を占めるD規模大学に関して回収率 75.3%で、ILLサービスの文献複写受付の 83%を占める参加機関から回答を得ている（表 1-3(a)）。同様にNACSIS-ILL（平成 21 年度実績）での資料貸借受付規模に対する本アンケートの回収率をみてみると、全体の 39.2%を占めるA規模大学に関して回収率 100%、同じく 21.9%を占めるB規模大学に関して回収率 87.1%、22.8%を占めるC規模大学に関して回収率 80.3%、11.9%を占めるD規模大学に関して回収率 85.3%で、ILLサービスの資料貸借受付の 89%を占める参加機関から回答を得ている（表 1-3(b)）。

つまり、NACIS-CAT/ILL を主体的に運用している機関からは本アンケートは高い比率で回答を得たものと考えることができる。

注）集計の用語と基準

参加機関：NACSIS-CAT/ILL に参加する法人単位を呼ぶ。

参加館　：NACSIS-CAT/ILL に参加する実務組織単位を呼ぶ。

参加機関と参加館：参加機関（例：大学）で、複数の参加館（学部図書館など）を有する例が少なくない。このため参加館数＞参加機関数である。

回答機関：参加機関のうち、アンケートに回答した参加館を含むものを呼ぶ。

回答館　：参加館のうち、アンケートに回答した参加館を呼ぶ。

NACSIS-CAT/ILL の統計情報：平成 21 年度末（2010 年 3 月）のデータを引用。

アンケート結果と統計情報を突合させるため、参照項目として「参加機関数」「NACSIS-CAT/ILL 新規書誌登録数」「複写依頼件数」「複写受付件数」などを引用した。

大学機関の規模：文部科学省実施の「学術情報基盤実態調査」で用いられる学部数による規模別大学基準、以下 A～D のとおり。

A：8 学部以上

B：5～7 学部

C：2～4 学部

D：単科大学

【表 1-1　アンケートへの規模・種類別回答数】

規模・種類		参加館数			機関数		
		回答館	参加館	回答率(%)	回答機関	参加機関	回答率(%)
A	（大学8学部～）	179	245	73.1	39	39	100.0
	国立	114	163	69.9	18	18	100.0
	公立	3	4	75.0	1	1	100.0
	私立	62	78	79.5	20	20	100.0
B	（大学　5～7学部	106	174	60.9	61	79	77.2
	国立	29	40	72.5	14	16	87.5
	公立	9	19	47.4	4	5	80.0
	私立	68	115	59.1	43	58	74.1
C	（大学　2～4学部	242	403	60.0	200	309	64.7
	国立	40	49	81.6	24	27	88.9
	公立	28	49	57.1	23	35	65.7
	私立	174	305	57.0	153	247	61.9
D	（大学　単科大学	178	307	58.0	171	284	60.2
	国立	27	30	90.0	24	25	96.0
	公立	28	47	59.6	28	41	68.3
	私立	123	230	53.5	119	218	54.6
他		149	325	45.8	145	313	46.3
全機関		854	1,454	58.7	616	1,024	60.2
大学	国立	210	282	74.5	80	86	93.0
	公立	68	119	57.1	56	82	68.3
	私立	427	728	58.7	335	543	61.7
大学	Ａ規模のみ	179	245	73.1	39	39	100.0
	ＡＢ規模	285	419	68.0	100	118	84.7
	ABC規模	527	822	64.1	300	427	70.3
	全規模	705	1,129	62.4	471	711	66.2
全機関		854	1,454	58.7	616	1,024	60.2

注）参加機関とは平成 21 年度末（2010 年 3 月）の NACSIS-CAT/ILL の統計データを指し、回答機関とは参加機関のうちアンケートに回答した図書館が属する大学等を指す。
回答率の算出式は、回答館の各値÷参加館の各値、回答機関の各値÷参加機関の各値。

【表 1-2　アンケートへの規模別種類別回答数（書誌登録基準）】

規模・種類		機関数			新規書誌作成数			
		回答機関	参加機関	回答率(%)	回答機関	参加機関	(構成比%)	回答率(%)
A	（大学8学部～）	39	39	100.0	149,531	149,531	(38.3)	100.0
	国立	18	18	100.0	122,016	122,016	(31.3)	100.0
	公立	1	1	100.0	1,906	1,906	(0.5)	100.0
	私立	20	20	100.0	25,609	25,609	(6.6)	100.0
B	（大学　5～7学部	61	79	77.2	43,606	51,841	(13.3)	84.1
	国立	14	16	87.5	12,573	15,800	(4.0)	79.6
	公立	4	5	80.0	2,678	2,798	(0.7)	95.7
	私立	43	58	74.1	28,355	33,243	(8.5)	85.3
C	（大学　2～4学部	200	309	64.7	64,531	79,095	(20.3)	81.6
	国立	24	27	88.9	34,659	36,018	(9.2)	96.2
	公立	23	35	65.7	3,936	3,986	(1.0)	98.7
	私立	153	247	61.9	25,936	39,091	(10.0)	66.3
D	（大学　単科大学	171	284	60.2	38,695	47,512	(12.2)	81.4
	国立	24	25	96.0	15,355	15,662	(4.0)	98.0
	公立	28	41	68.3	3,400	4,025	(1.0)	84.5
	私立	119	218	54.6	19,940	27,825	(7.1)	71.7
他		145	313	46.3	39,313	62,221	(15.9)	63.2
	短大	58	123	47.2	3,013	3,557	(0.9)	84.7
	高専	35	56	62.5	2,908	3,121	(0.8)	93.2
	共同	9	14	64.3	21,574	23,029	(5.9)	93.7
	他	43	120	35.8	11,818	32,514	(8.3)	36.3
全機関		616	1,024	60.2	335,676	390,200	(100.0)	86.0
大学	国立	80	86	93.0	184,603	189,496	(48.6)	97.4
	公立	56	82	68.3	11,920	12,715	(3.3)	93.7
	私立	335	543	61.7	99,840	125,768	(32.2)	79.4
大学	Ａ規模のみ	39	39	100.0	149,531	149,531	(38.3)	100.0
	ＡＢ規模	100	118	84.7	193,137	201,372	(51.6)	95.9
	ABC規模	300	427	70.3	257,668	280,467	(71.9)	91.9
	全規模	471	711	66.2	296,363	327,979	(84.1)	90.4
大学以外　他機関		145	313	46.3	39,313	62,221	(15.9)	63.2
全機関		616	1,024	60.2	335,676	390,200	(100.0)	86.0

注）参加機関とは平成 21 年度末（2010 年 3 月）の NACSIS-CAT/ILL の統計データを指し、回答機関とは参加機関のうちアンケートに回答した図書館が属する大学等を指す。
回答率の算出式は、回答機関の各値÷参加機関の各値。
構成比の算出式は、参加機関の各値÷参加機関の合計値（全機関）。

【表 1-3(a)　アンケートへの機関規模・種類別回答数（文献複写受付基準）】

規模・種類		機関数			複写受付件数			
		回答機関	参加機関	回答率(%)	回答機関	参加機関	(構成比%)	回答率(%)
Ａ規模		39	39	100.0	302,564	302,564	(32.2)	100.0
	国立	18	18	100.0	230,301	230,301	(24.5)	100.0
	公立	1	1	100.0	6,049	6,049	(0.6)	100.0
	私立	20	20	100.0	66,214	66,214	(7.1)	100.0
Ｂ規模		61	79	77.2	148,467	166,595	(17.8)	89.1
	国立	14	16	87.5	63,134	69,165	(7.4)	91.3
	公立	4	5	80.0	15,327	15,923	(1.7)	96.3
	私立	43	58	74.1	70,006	81,507	(8.7)	85.9
Ｃ規模		200	309	64.7	202,803	281,559	(30.0)	72.0
	国立	24	27	88.9	63,870	87,231	(9.3)	73.2
	公立	23	35	65.7	34,799	42,497	(4.5)	81.9
	私立	153	247	61.9	104,134	151,831	(16.2)	68.6
Ｄ規模		171	284	60.2	109,183	144,979	(15.5)	75.3
	国立	24	25	96.0	39,460	40,188	(4.3)	98.2
	公立	28	41	68.3	23,616	28,746	(3.1)	82.2
	私立	119	218	54.6	46,107	76,045	(8.1)	60.6
他		145	313	46.3	22,480	42,660	(4.5)	52.7
	短大	58	123	47.2	1,868	4,124	(0.4)	45.3
	高専	35	56	62.5	466	685	(0.1)	68.0
	共同	9	14	64.3	10,004	14,358	(1.5)	69.7
	他	43	120	35.8	10,142	23,493	(2.5)	43.2
全機関		616	1,024	60.2	785,497	938,357	(100.0)	83.7
大学	国立	80	86	93.0	396,765	426,885	(45.5)	92.9
	公立	56	82	68.3	79,791	93,215	(9.9)	85.6
	私立	335	543	61.7	286,461	375,597	(40.0)	76.3
大学	Ａ規模のみ	39	39	100.0	302,564	302,564	(32.2)	100.0
	ＡＢ規模	100	118	84.7	451,031	469,159	(50.0)	96.1
	ABC規模	300	427	70.3	653,834	750,718	(80.0)	87.1
	全規模	471	711	66.2	763,017	895,697	(95.5)	85.2
大学以外　他機関		145	313	46.3	22,480	42,660	(4.5)	52.7
全機関		616	1,024	60.2	785,497	938,357	(100.0)	83.7

注）参加機関とは平成 21 年度末（2010 年 3 月）の NACSIS-CAT/ILL の統計データを指し、回答機関とは参加機関のうちアンケートに回答した図書館が属する大学等を指す。
回答率の算出式は、回答機関の各値÷参加機関の各値。
構成比の算出式は、参加機関の各値÷参加機関の合計値（全機関）。

【表 1-3(b)　アンケートへの規模・種類別回答数（資料貸借受付基準）】

規模・種類		機関数			貸借受付件数			
		回答機関	参加機関	回答率(%)	回答機関	参加機関	(構成比%)	回答率(%)
Ａ規模		39	39	100.0	52,126	52,126	(39.2)	100.0
	国立	18	18	100.0	36,380	36,380	(27.4)	100.0
	公立	1	1	100.0	1,502	1,502	(1.1)	100.0
	私立	20	20	100.0	14,244	14,244	(10.7)	100.0
Ｂ規模		61	79	77.2	25,378	29,125	(21.9)	87.1
	国立	14	16	87.5	9,211	10,387	(7.8)	88.7
	公立	4	5	80.0	1,141	1,249	(0.9)	91.4
	私立	43	58	74.1	15,026	17,489	(13.2)	85.9
Ｃ規模		200	309	64.7	24,339	30,308	(22.8)	80.3
	国立	24	27	88.9	10,306	10,977	(8.3)	93.9
	公立	23	35	65.7	2,388	2,924	(2.2)	81.7
	私立	153	247	61.9	11,645	16,407	(12.3)	71.0
Ｄ規模		171	284	60.2	13,506	15,827	(11.9)	85.3
	国立	24	25	96.0	10,147	10,343	(7.8)	98.1
	公立	28	41	68.3	939	1,148	(0.9)	81.8
	私立	119	218	54.6	2,420	4,336	(3.3)	55.8
他		145	313	46.3	3,295	5,574	(4.2)	59.1
	短大	58	123	47.2	326	481	(0.4)	67.8
	高専	35	56	62.5	164	200	(0.2)	82.0
	共同	9	14	64.3	1,907	2,153	(1.6)	88.6
	他	43	120	35.8	898	2,740	(2.1)	32.8
全機関		616	1,024	60.2	118,644	132,960	(100.0)	89.2
大学	国立	80	86	93.0	66,044	68,087	(51.2)	97.0
	公立	56	82	68.3	5,970	6,823	(5.1)	87.5
	私立	335	543	61.7	43,335	52,476	(39.5)	82.6
大学	Ａ規模のみ	39	39	100.0	52,126	52,126	(39.2)	100.0
	ＡＢ規模	100	118	84.7	77,504	81,251	(61.1)	95.4
	ABC規模	300	427	70.3	101,843	111,559	(83.9)	91.3
	全規模	471	711	66.2	115,349	127,386	(95.8)	90.6
大学以外　他機関		145	313	46.3	3,295	5,574	(4.2)	59.1
全機関		616	1,024	60.2	118,644	132,960	(100.0)	89.2

注）参加機関とは NACSIS-CAT/ILL に参加する図書館が属する大学等（平成 21 年度末（2010 年 3 月）の NACSIS-CAT/ILL の統計データ）を指し、回答機関とは参加機関のうちアンケートに回答した図書館が属する大学等を指す。
回答率の算出式は、回答機関の各値÷参加機関の各値。
構成比の算出式は、参加機関の各値÷参加機関の合計値（全機関）。

第２章　アンケート基礎集計

アンケートの回答内容について単純集計したものを掲載した。記述回答の一覧については第３章に掲載した。

第１項　全般について

1－1　CAT/ILL に関する概況をお答えください。

(1)　目録担当者の人数

常勤職員　　名

	0	1	2～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～	全体
回答数	100	273	322	24	4	1	0	0	0	724
構成比	13.8%	37.7%	44.5%	3.3%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

常勤職員ののべ人数 1,323 名

非常勤職員（含派遣職員・アルバイト等）　　名

	0	1	2～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～	全体
回答数	162	190	279	42	19	0	0	1	1	694
構成比	23.3%	27.4%	40.2%	6.1%	2.7%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	100.0%

非常勤職員ののべ人数 1,633 名

(2)　目録・整理業務に従事している職員すべての週当たりの概ねの勤務総時間数（合計）をお答えください。　（　　）時間

	0	～10	～20	～50	～100	～200	～300	～500	501～	全体
回答数	13	78	51	218	183	160	45	25	11	784
構成比	1.7%	9.9%	6.5%	27.8%	23.3%	20.4%	5.7%	3.2%	1.4%	100.0%

(3)　目録業務の外部委託をおこないましたか。※平成 21 年度実績

1）はい　（業務内容：）

2）いいえ

	はい	いいえ	全体
回答数	206	591	797
構成比	25.8%	74.2%	100.0%

	遡及入力	新刊書入力	装備	所蔵登録	書誌作成	特殊資料	受入業務	ローカルデータ整備	目録業務全般	その他
回答数	44	6	41	20	27	16	14	4	95	6
%(n=200)	22.0%	3.0%	20.5%	10.0%	13.5%	8.0%	7.0%	2.0%	47.5%	3.0%

(4)　年間の整理冊数　（図書扱いのもののみ）

（和書約　　洋書約　）冊　※平成 21 年度実績

上記のうち、図書館外での作業である等の理由により、時間・人数管理をしていない外部委託作業による整理冊数

（和書約　　洋書約　）冊　※平成 21 年度実績

【年間整理冊数　和書】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	8	20	44	76	274	110	140	109	9	790
構成比	1.0%	2.5%	5.6%	9.6%	34.7%	13.9%	17.7%	13.8%	1.1%	100.0%

【年間整理冊数　洋書】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	34	199	222	113	126	23	35	29	5	786
構成比	4.3%	25.3%	28.2%	14.4%	16.0%	2.9%	4.5%	3.7%	0.6%	100.0%

【年間整理冊数　和洋合算】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	9	7	37	63	253	130	145	128	20	792
構成比	1.1%	0.9%	4.7%	8.0%	31.9%	16.4%	18.3%	16.2%	2.5%	100.0%

【上の内、委託作業による年間整理冊数　和書】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	447	2	12	15	31	18	13	20	2	560
構成比	79.8%	0.4%	2.1%	2.7%	5.5%	3.2%	2.3%	3.6%	0.4%	100.0%

【上の内、委託作業による年間整理冊数　洋書】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	471	12	22	18	15	3	9	8	1	559
構成比	84.3%	2.1%	3.9%	3.2%	2.7%	0.5%	1.6%	1.4%	0.2%	100.0%

【上の内、委託作業による年間整理冊数　和洋合算】

	0	～100	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	～50000	50001～	全体
回答数	445	1	8	16	36	18	15	20	6	565
構成比	78.8%	0.2%	1.4%	2.8%	6.4%	3.2%	2.7%	3.5%	1.1%	100.0%

(5)　ILL 担当者の人数

常勤職員　　名

	0	1	2～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～	全体
回答数	165	365	211	4	1	0	0	0	0	746
構成比	22.1%	48.9%	28.3%	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

常勤職員ののべ人数 893 名

非常勤職員（含派遣職員・アルバイト等）　　名

	0	1	2～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～	全体
回答数	215	239	241	19	3	0	1	0	0	718
構成比	29.9%	33.3%	33.6%	2.6%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	100.0%

非常勤職員ののべ人数 1,085 名

（常勤職員＋非常勤職員　での人数）

	0	1	2～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～	全体
回答数	33	276	473	36	9	1	1	0	0	829
構成比	4.0%	33.3%	57.1%	4.3%	1.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	100.0%

常勤職員+ 非常勤職員ののべ人数 1,978 名

(6)　ILL 業務に従事している職員すべての週当たりの概ねの勤務総時間数（合計）をお答えください。

	0	～10	～20	～50	～100	～200	～300	～500	501～	全体
回答数	39	178	62	235	205	77	14	2	2	814
構成比	4.8%	21.9%	7.6%	28.9%	25.2%	9.5%	1.7%	0.2%	0.2%	100.0%

(7)　ILL 業務の外部委託をおこないましたか。※平成 21 年度実績

1)　はい　（業務内容：）

2)　いいえ

	はい	いいえ	全体
回答数	107	722	829
構成比	12.9%	87.1%	100.0%

	複写受付	複写依頼	貸借受付	貸借依頼	NACSIS-ILLを使用しない文献複写・貸借	資料のコピー作業	資料の発送作業	料金徴収関係	ILL業務全般	その他
回答数	25	18	14	15	3	8	15	2	54	1
%(n=105)	12.5%	17.1%	13.3%	14.3%	2.9%	7.6%	14.3%	1.9%	51.4%	1.0%

(8)　NACSIS-ILL 経由以外も含む年間の処理件数　※平成 21 年度実績

複写依頼件数　　件　　貸借依頼件数　　件

複写受付件数　　件　　貸借受付件数　　件

【複写依頼件数分布】

	0	～20	～50	～100	～300	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	10001～	全体
回答数	42	47	62	66	185	89	128	170	31	10	2	832
構成比	5.0%	5.6%	7.5%	7.9%	22.2%	10.7%	15.4%	20.4%	3.7%	1.2%	0.2%	100.0%

【貸借依頼件数分布】

	0	～20	～50	～100	～300	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	10001～	全体
回答数	96	272	144	94	120	41	40	18	3	0	0	828
構成比	11.6%	32.9%	17.4%	11.4%	14.5%	5.0%	4.8%	2.2%	0.4%	0.0%	0.0%	100.0%

【複写受付件数分布】

	0	～20	～50	～100	～300	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	10001～	全体
回答数	80	114	61	46	113	93	109	139	44	19	9	827
構成比	9.7%	13.8%	7.4%	5.6%	13.7%	11.2%	13.2%	16.8%	5.3%	2.3%	1.1%	100.0%

【貸借受付件数分布】

	0	～20	～50	～100	～300	～500	～1000	～3000	～5000	～10000	10001～	全体
回答数	153	241	120	81	123	39	41	22	0	2	1	823
構成比	18.6%	29.3%	14.6%	9.8%	14.9%	4.7%	5.0%	2.7%	0.0%	0.2%	0.1%	100.0%

1－2　使用している図書館システムについてお答えください。

(1)　図書館システムのハードウェアの調達形態

1) レンタルサーバの管理

2) 買取りサーバを管理

3) ホスティングサービスの利用

4) パーソナルコンピュータ

5) その他

	レンタルサーバの管理	買い取りサーバを管理	ホスティングサービスの利用	パーソナルコンピュータ	その他	全体
回答数	469	250	9	55	60	843
構成比	55.6%	29.7%	1.1%	6.5%	7.1%	100.0%

(2)　図書館システムアプリケーションの調達形態

1) レンタルシステム

2) ソフトウェアの買取り

3)　独自開発

4)　WebUIP（NII が提供しているクライアントシステム）

	レンタルシステム	ソフトウェアの買取	独自開発	WebUIP	全体
回答数	469	250	9	55	783
構成比	59.9%	31.9%	1.1%	7.0%	100.0%

(3)　クライアントメーカー・製品名

メーカー名

	富士通	リコー	NEC	ブレインテック	NTTデータ九州	京セラ・丸善	日立	日本事務器	シー・エム・エス	日本電子計算	新日鉄ソリューションズ	三菱スペース・ソフトウェア	Ex Libris	丸善	ニューライブ	ソフテック	IBM	インフォコム	システムラボ	他
回答数	183	165	148	93	63	51	32	17	17	13	8	8	6	5	4	4	4	3	2	20
%(n=846)	21.6%	19.5%	17.5%	11.0%	7.4%	6.0%	3.8%	2.0%	2.0%	1.5%	0.9%	0.9%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%	0.2%	2.4%

製品名

	iLiswave	LIMEDIO	E-Cats	情報館	NALIS	CALIS	LICSU-WEB	UNIPROVE	NeoCILIUS	BT-CATP	ALIS (独自開発)	LVZ	Aleph, Primo, SFC, Verde	Lib Max	New Lib	Hello Library	他
回答数	176	165	107	83	63	53	49	30	17	9	8	6	6	4	4	3	61
%(n=844)	20.9%	19.5%	12.7%	9.8%	7.5%	6.3%	5.8%	3.6%	2.0%	1.1%	0.9%	0.7%	0.7%	0.5%	0.5%	0.4%	7.2%

第 2 項　目録

2－1　NII が準備しているシステム等の使用状況について、お答えください。

[1]　各種ツール

(1)　NACSIS-CAT マニュアル全文検索

（ http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_manu_search.html ）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	682	110	792
構成比	86.1%	13.9%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	240	398	147	785
構成比	30.6%	50.7%	18.7%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	623	9	157	789
構成比	79.0%	1.1%	19.9%	100.0%

(2)　NACSIS-CAT/ILL Q&A データベース（DB 検索、DB への質問、重複報告、修正報告）

（ https://cattools.nii.ac.jp/qanda/menu.php ）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	673	118	791
構成比	85.1%	14.9%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	303	320	159	782
構成比	38.7%	40.9%	20.3%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	626	10	149	785
構成比	79.7%	1.3%	19.0%	100.0%

(3)　レコード調整連絡ツール

（ http://mokuren.nii.ac.jp/recordctl/ ）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	626	162	788
構成比	79.4%	20.6%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	132	339	309	780
構成比	16.9%	43.5%	39.6%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	455	34	294	783
構成比	58.1%	4.3%	37.5%	100.0%

(4)　雑誌変遷マップ表示システム

（ http://cattools.nii.ac.jp/map/utf-8.html ）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	563	229	792
構成比	71.1%	28.9%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	115	376	291	782
構成比	14.7%	48.1%	37.2%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	489	25	270	784
構成比	62.4%	3.2%	34.4%	100.0%

(5)　WebUIP

（オプションサービス NII が提供しているクライアントシステム）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	491	299	790
構成比	62.2%	37.8%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	36	156	584	776
構成比	4.6%	20.1%	75.3%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	126	220	432	778
構成比	16.2%	28.3%	55.5%	100.0%

[2]　検索サービス

(6)　WebcatPlus

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	778	13	791
構成比	98.4%	1.6%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	336	402	53	791
構成比	42.5%	50.8%	6.7%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	658	29	101	788
構成比	83.5%	3.7%	12.8%	100.0%

(7)　WebcatPlusMinus

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	312	478	790
構成比	39.5%	60.5%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	51	213	508	772
構成比	6.6%	27.6%	65.8%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	266	44	465	775
構成比	34.3%	5.7%	60.0%	100.0%

(8)　Webcat

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	781	10	791
構成比	98.7%	1.3%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	661	112	16	789
構成比	83.8%	14.2%	2.0%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	744	8	36	788
構成比	94.4%	1.0%	4.6%	100.0%

(9)　Z39.50 接続

（オプションサービス http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/option/#4 参照）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	379	407	786
構成比	48.2%	51.8%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	34	85	647	766
構成比	4.4%	11.1%	84.5%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	80	150	543	773
構成比	10.3%	19.4%	70.2%	100.0%

(10)　検索専用サーバ

（オプションサービス http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/option/#3 参照）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	224	567	791
構成比	28.3%	71.7%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	64	63	640	767
構成比	8.3%	8.2%	83.4%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	102	130	542	774
構成比	13.2%	16.8%	70.0%	100.0%

２－２　参考図書の所有・利用状況についてお伺いします。該当するものをチェックしてください。

(1)　『日本目録規則（NCR)』(複数回答可)

1) 利用している。　（　1987 年版改訂 3 版　　それ以前の版）

2) 利用していない。　（理由：　和書は所蔵していないため不要　　その他 ）

	利用している	利用していない	計
回答数	732	49	781
構成比	93.7%	6.3%	100.0%

（利用しているの詳細）

	1987年版改訂3版	それ以前の版	計
回答数	552	139	691
構成比	79.9%	20.1%	100.0%

（利用していないの詳細）

	和書は所蔵していない	その他	計
回答数	4	35	39
構成比	10.3%	89.7%	100.0%

(2)　『英米目録規則第２版（AACR2）　日本語版』

1) 利用している。

2) 利用していない。→　以下の理由を選択

	利用している	利用していない	計
回答数	560	232	792
構成比	70.7%	29.3%	100.0%

理由：

絶版のため所有していない

英語版を利用

洋書は所蔵していないため不要

その他

	絶版のため所有していない	英語版を利用	洋書は所蔵していない	その他	計
回答数	94	6	8	100	208
構成比	45.2%	2.9%	3.8%	48.1%	100.0%

(3)　RDA（Resource Description and Access）

1) オンライン契約している。
2) 今後オンライン契約する予定
3) 冊子を購入予定
4) 契約・購入を検討中
5) よくわからない。

	オンライン契約	今後オンライン契約する予定	冊子を購入予定	契約・購入を検討中	よくわからない	計
回答数	4	24	22	49	680	779
構成比	0.5%	3.1%	2.8%	6.3%	87.3%	100.0%

(4)　コーディングマニュアル（オンライン版）

存在を　→　1) 知っている　2) 知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	725	67	792
構成比	91.5%	8.5%	100.0%

利用頻度　→　1) 高　2) 低　3) 無

	高い	低い	無	計
回答数	407	275	107	789
構成比	51.6%	34.9%	13.6%	100.0%

今後の利用　→　1) する　2) しない　3) 未定

	する	しない	未定	計
回答数	662	8	119	789
構成比	83.9%	1.0%	15.1%	100.0%

(5)　コーディングマニュアル（ルーズリーフ差替え版）

存在を　→　1) 知っている　2) 知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	724	65	789
構成比	91.8%	8.2%	100.0%

利用頻度　→　1) 高　2) 低　3) 無

	高い	低い	無	計
回答数	170	440	174	784
構成比	21.7%	56.1%	22.2%	100.0%

今後の利用　→　1) する　2) しない　3) 未定

	する	しない	未定	計
回答数	439	109	237	785
構成比	55.9%	13.9%	30.2%	100.0%

(6)　目録情報の基準（オンライン版）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	673	121	794
構成比	84.8%	15.2%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	279	349	159	787
構成比	35.5%	44.3%	20.2%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	599	10	180	789
構成比	75.9%	1.3%	22.8%	100.0%

(7)　目録情報の基準（冊子体）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	684	111	795
構成比	86.0%	14.0%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	197	386	207	790
構成比	24.9%	48.9%	26.2%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	434	96	259	789
構成比	55.0%	12.2%	32.8%	100.0%

(8)　その他に日常的に使用している目録規則類や参考資料がありましたらご記入ください。

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

２－３　NACSIS-CAT の書誌作成状況について、貴館の館全体としての現状をご回答ください。

（ILL 業務のみ行っている参加組織は回答不要です。そのまま未記入で「送信」してください）

(1)　書誌の登録・作成状況について

1) 所蔵登録のみを行っている。書誌の作成・修正は行っていない。→(2)へ

2) 必要に応じて、NACSIS-CAT の書誌修正は行うが、新規作成は行っていない。→(2)へ（VOL の追加のみ行う場合も含む）

3) 必要に応じて、NACSIS-CAT の書誌の新規作成も行っている。→(3)へ

	所蔵のみを行っている。書誌の作成・修正は行っていない	必要に応じてNACSIS-CATの書誌修正は行うが新規作成は行っていない	必要に応じてNACSIS-CATの書誌の新規作成を行っている	計
回答数	253	99	427	779
構成比	32.5%	12.7%	54.8%	100.0%

(2)　書誌修正、新規作成を行っていない理由があればお書きください。

	A	B	C	D	他	計
人手不足	3		30	28	21	82
スキル不足	13	3	21	22	20	79
登録がある	5	1	10	9	8	33
外部委託のため	2		4	2		8
システム不備	1		1	1	3	6
充足している			2		2	4
独自対応			2		2	4
作成ミス防止				1	2	3
遡及作業			1			1
今後予定			1			1
大手依存				1		1
体制				1		1
ミス防止				1		1
(空白)				1	2	3
計	24	4	72	67	60	227

(3)　書誌新規作成を行うスキルのある目録担当者の人数

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～	計
回答数	113	215	179	84	44	33	20	11	4	7	5	10	725
構成比	15.6%	29.7%	24.7%	11.6%	6.1%	4.6%	2.8%	1.5%	0.6%	1.0%	0.7%	1.4%	100.0%

(4)　ローカルのみでの書誌の修正・作成について

1) 原則として、ローカルのみでの修正・作成は行わない。

2) NACSIS-CAT にヒットした書誌の修正を、ローカルのみで行うことがある。

3) NACSIS-CAT に書誌がない場合、ローカルにのみ書誌を作成することがある。

	原則としてローカルのみでの修正・作成は行わない	NACSIS-CATにヒットした書誌の修正をローカルで行うことがある	NACSIS-CATに書誌がない場合にのみ書誌を作成することがある	計
回答数	173	117	482	772
構成比	22.4%	15.2%	62.4%	100.0%

(5)　ローカルのみでの書誌作成や修正を行う理由、その対象となる資料があればお書きください。

⇒ローカルのみでの書誌作成や修正を行う理由

項目	学内での利用	長期保存しない	書誌管理の方針	資料が特殊	時間やスキルの不足	その他	計
回答数	71	43	36	35	27	55	267
構成比	26.6%	16.1%	13.5%	13.1%	10.1%	20.6%	100.0%

⇒対象となる資料

項目	視聴覚資料等	郷土関係資料	古典・古文書	論文等	学内で作成した資料	NACSIS-CAT上に書誌が無い資料	洋書、地域言語書	電子Book類	楽譜等	問題集等	その他	計
回答数	57	16	13	13	13	8	7	6	5	3	70	211
構成比	27.0%	7.6%	6.2%	6.2%	6.2%	3.8%	3.3%	2.8%	2.4%	1.4%	33.2%	100.0%

(6)　図書書誌流用作成時によく利用している参照 MARC 等をご回答ください。

（複数回答可）

1) JPMARC　2) TRCMARC　3) USMARC　4) USMARCX

5) GPOMARC　6) UKMARC　7) DNMARC　8) CHMARC

9) KORMARC　10) REMARC　11) RECON　12) OCLC

13) HBZ

	JPMARC	TRCMARC	USMARC	USMARCX	GPOMARC	UKMARC	DNMARC	CHMARC	KORMARC	REMARC	RECON	OCLC	HBZ
回答数	666	593	452	40	75	311	123	61	39	21	38	192	10
%(n=718)	92.8%	82.6%	63.0%	5.6%	10.4%	43.3%	17.1%	8.5%	5.4%	2.9%	5.3%	26.7%	1.4%

(7)　著者名典拠とのリンクについて

1) 著者名典拠は可能な限りリンクしている（著者名典拠の新規作成も行う）

2) 著者名典拠があればリンクしている（著者名典拠の新規作成はしない）

①　著者名典拠リンク作業はしない

	著者名典拠は可能な限りリンクしている	著者名典拠があればリンクしている	著者名典拠リンク作業はしない	計
回答数	200	366	197	763
構成比	26.2%	48.0%	25.8%	100.0%

(8)　レコード調整件数　※平成 21 年度実績

受付件数：　　件

依頼件数：　　件

【受付件数分布】

	0	～10	～20	～50	～100	～200	～300	～500	501～	全体
回答数	169	184	85	101	75	42	14	16	12	698
構成比	24.2%	26.4%	12.2%	14.5%	10.7%	6.0%	2.0%	2.3%	1.7%	100.0%

受付件数の総件数：38,890 件／698 回答館

【依頼件数分布】

	0	～10	～20	～50	～100	～200	～300	～500	501～	全体
回答数	407	160	33	39	21	16	8	4	5	693
構成比	58.7%	23.1%	4.8%	5.6%	3.0%	2.3%	1.2%	0.6%	0.7%	100.0%

依頼件数の総件数：13,129 件／693 回答館

(9)　レコード調整依頼時の問題点は何ですか？（複数回答可）

1) 質問前の事前調査や依頼文の作成

2) 情報源の準備

3) 相手館の連絡先調査

4) 回答を得るまでに時間がかかる

5) 解釈の違いで修正を拒否される

5)　目録のルールが細かすぎる

6)作成館以外に修正の権限がない

7)その他

	質問前の事前調査や依頼文の作成	情報源の準備	相手館の連絡先調査	回答を得るまでに時間がかかる	解釈の違いで修正を拒否される	目録のルールが細かすぎる	作成館以外に修正の権限がない	その他	計
回答数	335	175	125	192	106	103	159	115	1,310
%(n=601)	55.7%	29.1%	20.8%	31.9%	17.6%	17.1%	26.5%	19.1%	

(10)　レコード調整受付時の問題点は何ですか？（複数回答可）

1) 現物の確保・確認
2) 同一質問に何度も対処
3) 発見館修正可でも質問される
4) 他館の修正にもかかわらず質問される
5) 作成館ではないのに質問される
6) 解釈の違いで回答に納得を得られない
7) 目録のルールが細かすぎる
8) 作成館にすべての責任が負わされている
9) その他

	現物の確保・確認	同一質問に何度も対処	発見館修正可でも質問される	他館の修正にもかかわらず質問される	作成館ではないのに質問される	解釈の違いで回答に納得を得られない	目録のルールが細かすぎる	作成館にすべての責任が負わされている	その他	計
回答数	342	52	132	131	120	102	100	242	86	1,307
%(n=621)	55.1%	8.4%	21.3%	21.1%	19.3%	16.4%	16.1%	39.0%	13.8%	

(11)　書誌作成やレコード調整について、自由にご意見をお書きください。

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

2－4　事前登録書誌について

NII では平成 22 年 1～3 月に和図書書誌について事前登録書誌の試行を行いました。

(1)　これについて知っていましたか。

1) はい

2) いいえ

	知っている	知らない	計
回答数	393	396	789
構成比	49.8%	50.2%	100.0%

(2)　事前登録書誌について、有効だと思いますか。

1) はい

2) いいえ

	有効	有効ではない	計
回答数	667	86	753
構成比	88.6%	11.4%	100.0%

(3)　新刊の和図書の大多数（90%程度）について、発行から 1 週間程度で、事前登録書誌が登録されるとしたら、どのように利用しますか。

1) 1 週間程度ならば、登録されるまで待つ

2) 登録されていなかったら先に新規作成する

3) その他

	1週間程度ならば、登録されるまで待つ	登録されていなかったら先に新規作成する	その他	計
回答数	635	86	54	775
構成比	81.9%	11.1%	7.0%	100.0%

(4)　事前登録書誌について、ご意見があればご記入ください。

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

第３項　ILLについて

３－１　NII が準備している各種ツール・システムの使用状況について、該当するものをチェックしてください。

(1)　NACSIS-ILL マニュアル全文検索

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	651	184	835
構成比	78.0%	22.0%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	87	472	266	825
構成比	10.5%	57.2%	32.2%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	合計
回答数	502	31	295	828
構成比	60.6%	3.7%	35.6%	100.0%

(2)　ILL 料金相殺システム

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	合計
回答数	827	10	837
構成比	98.8%	1.2%	100.0%

今後の利用　→　1)している　2)しない（理由：　）　3）検討中

	している	しない	未定	合計
回答数	650	95	78	823
構成比	79.0%	11.5%	9.5%	100.0%

(3)　ISO ILL 用 WebUIP

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	340	490	830
構成比	41.0%	59.0%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	合計
回答数	23	128	655	806
構成比	2.9%	15.9%	81.3%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	108	174	533	815
構成比	13.3%	21.3%	65.4%	100.0%

３－１　参考図書の保有・活用状況についてお伺いします。該当するものをチェックしてください。

(1)　ILL システム操作マニュアル（オンライン版）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	694	139	833
構成比	83.3%	16.7%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	90	492	240	822
構成比	10.9%	59.9%	29.2%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	514	37	276	827
構成比	62.2%	4.5%	33.4%	100.0%

(2)　ILL システム操作マニュアル（冊子体）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	755	70	825
構成比	91.5%	8.5%	100.0%

利用頻度　→　1）高　2）低　3）無

	高い	低い	無	計
回答数	148	490	184	822
構成比	18.0%	59.6%	22.4%	100.0%

今後の利用　→　1）する　2）しない　3）未定

	する	しない	未定	計
回答数	517	72	235	824
構成比	62.7%	8.7%	28.5%	100.0%

(3)　ILL システム操作マニュアル ISO-ILL プロトコル対応（オンライン版）

存在を　→　1）知っている　2）知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	400	424	824
構成比	48.5%	51.5%	100.0%

利用頻度　→　1) 高　2) 低　3) 無

	高い	低い	無	計
回答数	38	202	566	806
構成比	4.7%	25.1%	70.2%	100.0%

今後の利用　→　1) する　2) しない　3) 未定

	する	しない	未定	計
回答数	195	105	512	812
構成比	24.0%	12.9%	63.1%	100.0%

(4)　ILL システム操作マニュアル ISO-ILL プロトコル対応（冊子体）

存在を　→　1) 知っている　2) 知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	438	396	834
構成比	52.5%	47.5%	100.0%

利用頻度　→　1) 高　2) 低　3) 無

	高い	低い	無	計
回答数	54	196	564	814
構成比	6.6%	24.1%	69.3%	100.0%

今後の利用　→　1) する　2) しない　3) 未定

	する	しない	未定	計
回答数	181	135	506	822
構成比	22.0%	16.4%	61.6%	100.0%

(5)　NACSIS-ILL 状態遷移図（下敷き）

存在を　→　1) 知っている　2) 知らなかった

	知っている	知らなかった	計
回答数	643	187	830
構成比	77.5%	22.5%	100.0%

利用頻度　→　1) 高　2) 低　3) 無

	高い	低い	無	計
回答数	222	324	272	818
構成比	27.1%	39.6%	33.3%	100.0%

今後の利用　→　1) する　2) しない　3) 未定

	する	しない	未定	計
回答数	462	74	287	823
構成比	56.1%	9.0%	34.9%	100.0%

3－3　文献複写等料金相殺について、ILL 相殺システムに参加している館のみご回答ください。

(1)　利用機関毎の月次明細データ・月次仕訳データをウェブで公開しています。これらのデータは毎月いつまでに必要ですか。

1) 当該月の翌月　　日まで 例：4 月の明細データを、5 月( ) 日までに
2) 当該月の翌月末まで 例：4 月の明細データを、5 月末までに
3) 四半期ごとでもよい 例：4 月の明細データを、翌四半期（7～9 月）でよい
4) いつでもよい
5) その他

	当該月翌月○日まで	当該月の翌月末まで	四半期ごとでもよい	いつでもよい	その他	計
回答数	368	53	102	36	46	605
構成比	60.8	8.8	16.9	6.0	7.6	100

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	10日	15日	20日	30日	計
回答数	90	56	46	4	89	1	21	1	44	7	4	1	364
構成比	24.7%	15.4%	12.6%	1.1%	24.5%	0.3%	5.8%	0.3%	12.1%	1.9%	1.1%	0.3%	100.0%

(2)　料金相殺結果通知書を四半期ごとに、翌四半期の初めに郵送していますが、いつまでに必要ですか？

1) 翌四半期第 1 月　　日まで 例：第 1 四半期（4～6 月）の通知書を 7 月( ) 日まで
2) 翌四半期第 1 月の末まで 例：第 1 四半期（4～6 月）の通知書を 7 月末まで
3) 翌四半期振込日前日まで 例：債権機関（NII から大学へ入金）の場合は第 1 四半期（4～6 月）の通知書を 8 月 10 日まで
4) いつでもよい
5) その他

	翌四半期第1月まで	翌四半期第1月の末まで	翌四半期振込日前日まで	いつでもよい	その他	計
回答数	418	58	9	48	69	602
構成比	69.4	9.6	1.5	8.0	11.5	100

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	10日	14日	15日	20日	計
回答数	28	10	39	12	134	4	45	2	110	1	21	7	413
構成比	6.8%	2.4%	9.4%	2.9%	32.4%	1.0%	10.9%	0.5%	26.6%	0.2%	5.1%	1.7%	100.0%

第４項　NACSIS-CAT/ILLに係る研修について

(1)　現在の担当者のうち、研修受講済みののべ人数

目録システム講習会（図書）　名

目録システム講習会（雑誌）　名

ILL システム講習会　名

【講習会　図書　受講者数分布】

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～	計
回答数	149	278	168	97	53	24	16	11	8	8	1	6	819
構成比	18.2%	33.9%	20.5%	11.8%	6.5%	2.9%	2.0%	1.3%	1.0%	1.0%	0.1%	0.7%	100.0%

【講習会　雑誌　受講者数分布】

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～	計
回答数	316	230	131	46	18	5	1	2	0	1	1	0	751
構成比	38.6%	28.1%	16.0%	5.6%	2.2%	0.7%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	100.0%

【ILL システム講習会　受講者数分布】

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11～	計
回答数	348	272	97	33	14	3	3	0	0	1	0	1	772
構成比	42.5%	33.2%	11.8%	4.0%	1.7%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	100.0%

(2)　受講できていない場合、その理由をお答えください。　(複数回答可)

1) 受講希望したが、選に漏れた。

2) 担当者の人数が少ないので、業務上、不可能

3) 非正規職員のため、学内事情で認められない

4) 公開された資料で自習している

5) その他

	受講希望したが、選に漏れた。	担当者の人数が少ないので、業務上、不可能	非正規職員のため、学内事情で認められない	公開された資料で自習している	その他
回答数	141	208	151	197	141
%(n=620)	22.7%	33.5%	24.4%	31.8%	22.7%

(3)　NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材の利用状況をお答えください。

1) 利用したことがある。　→(4)へ

2) 利用したことがないが、利用してみたい。　→(5)へ

3) 利用したことがない。　→(5)へ

	利用したことがある	利用したことがないが、利用してみたい	利用したことがない	合計
回答数	491	129	226	846
構成比	58.0%	15.2%	26.7%	100.0%

(4)　利用したことがある場合、感想をお答えください。（複数回答可）→(6)へ

1) 役に立った

2) 簡単すぎた

3) 難しすぎた

4) もっと詳しい内容がほしい

5) 分野・内容の拡充を希望する（具体的に：　）

6) その他

	役に立った	簡単すぎた	難しすぎた	もっと詳しい内容がほしい	分野・内容の拡充を希望する	その他
回答数	431	36	10	90	11	33
%(n=496)	86.9%	7.3%	2.0%	18.1%	2.2%	6.7%

(5)　利用したことがない場合、その理由をお答えください。（複数回答可）

1) 既に業務経験・知識が豊富

2) 学習したい分野・内容がない

3) 知らなかった

4) セットアップできなかった

5) その他

	既に業務経験・知識が豊富	学習したい分野・内容がない	知らなかった	セットアップできなかった	その他
回答数	65	12	186	21	93
%(n=346)	18.8%	3.5%	53.8%	6.1%	26.9%

(6)　NACSIS-CAT/ILL スキルの継承はどのように行っていますか？(複数回答可)

1) 外部での研修会（NII も含む）に参加

2) 定期的なミーティング・勉強会

3) 詳細なマニュアルの作成

4) メール等での外部との情報交換

5) その他

6) 特に行っていない

	外部での研修会(NIIも含む)に参加	定期的なミーティング・勉強会	詳細なマニュアルの作成	メール等での外部との情報交換	その他	特に行っていない
回答数	422	71	210	57	211	209
%(n=845)	49.9%	8.4%	24.9%	6.7%	25.0%	24.7%

(7)　NII の研修に対するご意見があれば、ご記入ください。

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

第 5 項　電子情報資源の管理・提供方法について

5－1　概況

(1)　電子ジャーナル・電子ブックの導入状況

1) 電子ジャーナル・電子ブックを管理・提供している

2) 学内の他の部署で管理・提供している（→5－5 にお進みください。）

3) 電子ジャーナル・電子ブックは導入していない。（→5－5 にお進みください。）

	電子ジャーナル･電子ブックを管理･提供している	学内の他の部署で管理･提供している	電子ジャーナル･電子ブックは導入していない	計
回答数	525	112	166	803
構成比	65.4%	13.9%	20.7%	100.0%

(2)　タイトル数　※平成 22 年度実績

電子ジャーナル　　タイトル数

注）カレント分カレント分の純タイトル数。アグリゲータ提供分とのタイトル重複は無視

【電子ジャーナル導入タイトル数分布】

	0	～100	～500	～1000	～5000	～10000	～30000	～50000	50001～	計
回答数	20	157	37	22	122	87	72	31	2	550
構成比	3.6%	28.5%	6.7%	4.0%	22.2%	15.8%	13.1%	5.6%	0.4%	100.0%

電子ブック　　タイトル数

注）前年度までの買い切りを含めた提供タイトル数

【電子ブック導入タイトル数分布】

	0	～100	～500	～1000	～5000	～10000	～30000	～50000	50001～	計
回答数	240	90	40	16	61	17	40	0	3	507
構成比	47.3%	17.8%	7.9%	3.2%	12.0%	3.4%	7.9%	0.0%	0.6%	100.0%

5－2　商用システム導入状況について

(1)　リンクリゾルバ（文献情報から一次文献をナビゲートするツール）

1) あり（製品名または提供ベンダー名：　）

2) なし

3) 検討中

	あり	なし	検討中	計
回答数	216	306	46	568
構成比	38.0%	53.9%	8.1%	100.0%

(1) で「あり」と回答の製品名または提供ベンダー名：

	Ex libris SFX	Serial Solutions 360search/ Link	EBSCO Link Source	SwetsWiseLinker	Scopus	OCLC WorldCat Link Manager	医中誌	その他	計
回答数	79	69	24	16	3	2	2	21	216
構成比	36.6%	31.9%	11.1%	7.4%	1.4%	0.9%	0.9%	9.7%	100.0%

(2)　ERMS（電子情報資源管理システム）

1) あり（製品名または提供ベンダー名：　）

2) なし

3) 検討中

	ERMSあり	ERMSなし	検討中	計
回答数	38	492	32	562
構成比	6.8%	87.5%	5.7%	100.0%

(2) で「あり」と回答の製品名または提供ベンダー名

	Serials Solutions	Serial Solutions 360search/ Link	Ex Libris社 Verde	その他	計
回答数	18	6	5	7	36
構成比	50.0%	16.7%	13.9%	19.4%	100.0%

(3)　A-Z リスト（電子ジャーナル/ブックのタイトルのアルファベット順リスト）

1）あり（製品名または提供ベンダー名：　）

2）なし

3）検討中

	あり	なし	検討中	計
回答数	283	262	24	569
構成比	49.7%	46.0%	4.2%	100.0%

1）でありと回答の製品名または提供ベンダー名

	Serial Solutions 360 CORE	EBSCO A to Z	Ex Libris SFX	Swet Wise Linker	紀伊国屋書店 Journal Web	自館作成	その他	計
回答数	85	79	68	19	6	6	20	283
構成比	30.0%	27.9%	24.0%	6.7%	2.1%	2.1%	7.1%	100.0%

(4)　ウェブスケールディスカバリサービス（自機関提供のコンテンツ以外に、商用の学術コンテンツのインデックスを収集し、検索及びアクセスを提供するサービス。Summon、EBSCO Discovery Service 等）

1）あり（製品名または提供ベンダー名）

2）なし

3）検討中

	あり	なし	検討中	計
回答数	31	482	46	559
構成比	5.5%	86.2%	8.2%	100.0%

1）でありと回答の製品名または提供ベンダー名

	MetaLib	EBSCO	Summon	その他	計
回答数	12	9	4	6	31
構成比	38.7%	29.0%	12.9%	19.4%	100.0%

(5)　その他（あれば簡潔に記入してください）

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

5－3　電子情報資源の管理方法

(1)　契約情報は、何によって管理していますか（複数選択可）

1) 図書館システム

2)表計算ソフト（Excel 等）

3) ERMS

4) その他

	図書館システム	表計算ソフト（Excel等）	ERMS	その他
回答数	214	319	27	132
%（n=543）	39.4%	58.7%	5.0%	24.3%

(2)　利用条件・ライセンス情報は、何によって管理していますか（複数選択可）

1) 図書館システム

2) 表計算ソフト（Excel 等）

3) ERMS

4) アグリーメントの保管

5) その他

	図書館システム	表計算ソフト（Excel等）	ERMS	アグリーメントの保管	その他
回答数	95	209	26	304	85
%（n=541）	17.6%	38.6%	4.8%	56.2%	15.7%

(3)　フリーコンテンツ（オープンアクセスタイトルの無料コンテンツ）の管理は行っていますか？

1) はい（提供範囲・方法をお書きください：　）

2) いいえ

	管理を行っている	管理を行っていない	計
回答数	194	367	561
構成比	34.6%	65.4%	100.0%

5－4　電子情報資源の提供方法

(1)　電子ジャーナルの提供はどのように行っていますか？（複数回答可）

1) ウェブサイトにリスト掲載

2) OPAC に登録

3) その他

	ウェブサイトにリスト掲載	OPACに登録	その他
回答数	441	172	88
%(n=551)	80.0%	31.2%	16.0%

(2)　電子ブックの提供はどのように行っていますか？（複数回答可）

1) ウェブサイトにリスト掲載

2) OPAC に登録

3) その他

	ウェブサイトにリスト掲載	OPACに登録	その他
回答数	219	148	112
%(n=369)	59.3%	40.1%	30.4%

5－5　電子情報資源について、他館へ ILL（文献複写）依頼をすることがありますか。

1) はい

2) いいえ

	依頼することがある	依頼することはない	計
回答数	448	393	841
構成比	53.3%	46.7%	100.0%

5－6　E リソースの管理・提供についてのご意見をお聞かせください。

≪第３章　記述式回答結果に掲載≫

5－7　OCLC NetLibrary の事前書誌登録について

(1)　NII では平成 22 年 7～9 月に電子ブック書誌について事前登録書誌の試行を行いました。

これについて知っていましたか？

1) はい

2) いいえ

	事前登録書誌の試行について知っていた	試行について知らなかった	計
回答数	166	620	786
構成比	21.1%	78.9%	100.0%

(2)　事前登録された OCLC NetLibrary の書誌を利用しましたか。

1) 所蔵登録をした

2) 書誌をダウンロードした

3) 書誌作成時に流用した

4) 利用しなかった

	所蔵登録をした	書誌をダウンロードした	書誌作成時に流用した	利用しなかった	計
回答数	1	7	5	722	735
構成比	0.1%	1.0%	0.7%	98.2%	100.0%

(3)　OCLC NetLibrary の事前書誌登録についてのご意見をお聞かせください。

≪第 3 章　記述式回答結果に掲載≫

第 6 項　自由記述

日頃、NACSIS-CAT/ILL 業務の課題と考えていること、NII への要望など、ご意見があればご記入ください。

自由記述については以下のように分類し、さらに大学規模別に集計した。
また、回答内容については、「第 3 章　記述式回答結果」に掲載した。

NACSIS-CAT　・・　主に NACSIS-CAT に関する課題及び改善要望等に関する内容。
NACSIS-ILL　・・　主に NACSIS-ILL に関する課題及び改善要望等に関する内容。
E リソース　・・・　主に電子情報資源に関する課題及び改善要望等に関する内容。
教育ニーズ　・・・　自館及び利用者のスキルアップによって利用度を高めるための要望等の内容。
利用サービス　・・　NACSIS-CAT/ILL、E リソースの利用環境に関連して利用度を高めるための要望等の内容。
その他　・・・・・　上記以外に自館の状況や課題等について言及した内容。

【自由意見に関する回答集計】

分類	A	B	C	D	他	計
NACSIS-CAT	12	5	14	9	4	44
NACSIS-ILL	4	4	3	2	1	14
Eリソース	1	2	1	2		6
教育ニーズ	5	1	5	5	4	20
利用サービス	2	5	12	5	6	30
その他	5	3	5	11	13	37
計	29	20	40	34	28	151

数値粗集計は以上

第 3 章　記述式回答結果

2-2-(8)　日常的に使用している目録規則類や参考資料がありましたらご記入ください。

規模	種類	内容
A	国	(1)『日本目録規則(NCR)』(複数回答可)　→　複数回答できず　●1987年版改訂3版　　●それ以前の版　日本目録規則1987年版改定版(2)『英米目録規則第2版(AACR2) 日本語版』　→　英語版も利用　Anglo-American cataloguing rules, second edition, 1988 revision, amendments 1993　希望:北米で使われている「Cataloger's Desktop](LC提供)の日本版がほしい。web上のリソース:LC
		・AACR2002Rの2005update・F.A.Salnger, E.Zagon ″Monograph cataloging notes″
		・NII講習会テキスト　・CATLINT: 目録のケアレスミス発見お助けページ(http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/misc/export/cat/catlint/catlint.html)　・Note for catalogers
		AACR2 2005 update, 目録システム利用マニュアル(冊子体,オンライン版)
		CMで規定されているNCR及びAACRの各版。NDL,LCの適用細則。
		DDC21
		NIIの各種資料取扱マニュアル
		Notes for catalogers : a sourcebook for use with AACR2
		NOTES in the catalog record based on AACR2 and LC rule interpretations.American Library Association, 1989
		Notes in the catalog record based on AACR2 and LC rule interpretations他 WEB上の各種情報
		オンライン・システムニュースレター抜刷集
		ニュースレター、オンラインシステムニュースレター抜刷集
		各言語辞書
		稀覯書の書誌記述(一橋大学社会科学古典資料センター)
		国際十進分類法(UDC) 日本語中間版第3版
		図書館員選書6　洋書目録法入門　つくり方編図書館員選書7　洋書目録法入門マニュアル編
		日本看護協会看護学図書分類表
		日本十進分類法 8版
		日本十進分類法　新訂9版、日本著者記号表　改訂版、DDC22版、翻訳サイト、海外図書館OPAC
		日本十進分類法(新訂7版)を基に独自に作成された分類規則
		目録システム講習会テキスト
		目録システム講習会テキスト(図書コース・雑誌コース)日本十進法分類法(新訂9版)
		目録システム利用マニュアル第5版
		目録講習会資料
		洋書　Cataloging Service Bulletin
		洋書目録法入門　改訂版
		洋書目録法入門(日本図書館協会出版)
		洋書目録法入門. つくり方編 / 丸山昭二郎. --日本図書館協会, 1986.5. (図書館選書;6)、洋書目録法入門. マニュアル編 / 丸山昭二郎. --日本図書館協会, 1988.7. (図書館選書;7)、Monograph Cataloging Notes / Salinger, Florence. Knowledge Industry Pubns, 1981 (Professional Librarian Series)
	公	日本十進分類法、日本著者記号法、オンラインシステムニュースレター等
	私	●目録編成規則第2章ワカチガキ(日本図書館協会)●大韓民国地名便覧●コンサイスAACR2　1988改定版●DCRB●DCRM●洋書目録法入門(作り方編、マニュアル編)(日本図書館協会)●Notes in the catalog record (ALA)●European languages for librarians (Bowker)●ALA-LC Romanization
		AACR2　2002rev.「図書館資料の目録と分類」、P205「ワカチガキ」
		Cataloger's Desktop (LC)Classification Web (LC)
		NDC(新訂9版)

規模	種類	内容
A	私	NDC変換便覧、BSH
		NII目録研修会の時の資料、テキスト類など。
		NOTES for serials cataloging
		TIME目録規則（学内独自）
		国文研データベース WINE Library of Congress Online Catalogs [old catalog]総合目録ネットワークシステム Karlsruher Virtueller Katalog（順不同）
		日本十進分類法 新訂8版
		日本十進分類法 新訂8版
		日本十進分類法新訂9版、日本著者記号表
B	国	「目録作成の技法 改訂版」（日本図書館協会）「洋書目録法入門. マニュアル編／作り方編」（日本図書館協会）「Notes in the catalog record : based on AACR2 and LC rules interpretations」（ALA）
		NLM分類表
		Notes' in the catalog record
		米国国立医学図書館分類法（NLM）
		目録システム講習会のテキスト
		目録ほにゃらら、特に「CATLINT」。
	公	日本著者記号表(改訂版)
	私	「日本十進分類法」新訂9版
		『稀覯書の書誌記述』（一橋大学社会科学古典資料センター、Study Series NO.11 1986
		・「国立国会図書館『日本目録規則』適用細則」・「2-2(1)『日本目録規則（NCR）』（複数回答可）」について、「1987年版改訂3版」を中心に利用するが、それ以前の版も利用することがある。
		AACR2002
		NDC入門
		オンライン・システムニュースレター 抜き刷り集
		コーディングマニュアル（和漢古書に関する抜粋集オンライン版）
		基本件名標目表（BSH）第4版、国立国会図書館件名標目表（NDLSH）OCLC、米国議会図書館件名標目表（LCSH）Web版、World cat、MARC21 OCLCMARC
		図書館員選書 6巻・7巻・20巻 （日本図書館協会発行）
		図書館用語集 三訂版
		大学図書館独自のマニュアル
		日本十進分類法8～9版 NII図書目録研修資料（H20）日本看護協会看護学図書分類表第2版
		洋書目録のつくり方 丸山昭二郎編 JLA洋書目録法入門 つくり方編 改訂版 丸山昭二郎編 JLAほか
C	国	AACR2 1998revAACR2 2002rev,2005upate
		NACSIS-CAT 書誌登録クイックレファレンス（図書編）（下敷き）
		NIIが発行している各種資料別取扱い案など
		日本十進分類表
		米国国立医学図書館 分類法 日本語版第5版日本十進法分類法 改訂9版
		米国国立医学図書館分類法（第5版）
		目録システム講習会テキスト
		目録講習会テキスト
		目録講習会のテキスト

規模	種類	内容
C	公	・目録作成の技法　改訂版　植田喜久次著　日本図書館協会出版・洋書目録法入門（つくり方編）　丸山昭二郎著　日本図書館協会出版
		ALA-LC Romanization Tables
		NDL-OPAC,その他各種OPAC,インターネット上の商用MARCなど
		基本件名標目表、日本十進分類表
		日本看護協会看護学図書分類表
		洋書分類用のDDCからNDCへの変換表
	私	『日本十進分類表』『日本著者記号表』ローカルデータ入力時に利用
		・NDC（新訂9版）
		・国会図書館ホームページ　書誌データの基本方針と書誌調整・Library of Congress Online Catalog
		1.米国国立医学図書館分類法2.日本十進分類法
		BL Online OPAC, KITのKVK
		DDC22
		NDC第9版,DDC22版,図書館資料の目録と分類増訂第4版,洋書目録法概説
		Notes in the catalog records / by Jerry D. Saye and Sherry L. Vellucci (ALA,
		看護学図書分類マニュアル（日本看護協会出版会）
		郷土資料分類表（自館で独自に作成）
		国立国会図書館「日本目録規則」適用細則第2版
		資料組織に関する解説図書（例『資料組織法』（第6版）（第一法規）、『洋書目録法入門』（JLA）
		独自作成のマニュアル
		日本十進分類法 新訂7版、8版（参考に9版）基本件名標目表 4版
		日本十進分類法　新訂9版
		日本十進分類法　新訂9版　本表編日本十進分類法　新訂9版　一般補助表・相関索引
		目録システム講習会テキスト
		洋書の目録登録時にDDC22
D	国	コーディングマニュアル(視聴覚資料抜粋，教科書抜粋)
		筑波大学のサイトCATLINT目録のケアレスミス発見お助けページ
		米国国立医学図書館分類法（NLMC）
	公	日本看護協会看護学図書分類表　第2版
	私	＜分類表＞　音楽図書・楽譜分類表 / 音楽図書館研究グループ編 , 1973
		・和書目録法入門/日本図書館協会・洋書目録法入門/日本図書館協会
		NACSIS-CAT/ILL講習会受講時に配布されたテキスト。（図書編、雑誌編、ILL編）
		勝山ゆかり，細田勉『視聴覚資料と楽譜の目録』音楽図書館協議会，2001.3音楽図書館協議会『音楽資料目録作成マニュアル』東京：大空社，1997.6
		図書館員選書「洋書目録法入門」つくり方、マニュアル編　　日外アソシエーツ「書誌をつくる」　目録システム講習会テキスト
		日本十進分類表（第9版）
		日本十進分類法
		日本図書館研究会『図書館資料の目録と分類』増訂第3版
		米国国立医学図書館分類表

規模	種類	内容
他	共	国立国会図書館分類表改訂版(1987)、Classification web
		日本十進分類法
	高専	基本件名標目表第4版
		日本十進分類法新訂9版
	短	『目録編成規則』『図書目録入力事例集』和書編・洋書編
		NDL-OPAC,NACSIS-CAT/ILL Q&ADB
		国立国会図書館OPAC
		日本著者記号表
	他	『日本目録規則(NCR)』新版予備版、『基本件名標目表』、『日本十進分類法』
		ALA「ALA-LC romanization tables」、日図協「洋書目録法入門」、ナウカ「ライブラリアンのためのロシア語」、帝国地方行政学会「外国人の姓名」
		DDC20版　NDC8版　JPマーク　TRCマーク
		NACSIS-CAT　全国雑誌所蔵データ更新作業マニュアル
		講習会テキスト
		資料組織法　第6版 / 志保田務, 高鷲忠美著
		日本図書館協会発行　図書課人選書シリーズ
		洋書目録法入門

2-3-(11)　書誌作成やレコード調整について、自由にご意見をお書きください。

区分	規模	種類	内容
レコード調整	A	国	レコード調整に思いの他、時間を取られています。Q&Aの検索で確認したい項目に辿りつきづらい(和・洋の絞込みとか)。
			・PTBLのリンクが必須となっているが、雑誌書誌の変遷関係のように継続関係が管理されているわけではないので、PTBLに関する書誌調整を行う事例が多い。例えば、巻号があるものはPTBLのリンク関係に迷うことは無いが、巻号が無い場合、出版者の変更やシリーズタイトルの軽微な変更で新規書誌が作成されてしまうケースとそうでないケースが混在し、このような場合に対応にることが多い。
			レコード調整受付時、依頼館が情報源のコピー・画像を提供してくれないため、結果的に二度手間になることが再三ある。情報源の添付については再三周知していただいているが、さらに強力に周知をお願いしたい。また、CATLINTのようなツールが公式に提供され、広く利用されれば、ケアレスミスが減少し、それに関わる書誌調整も減少することが期待できる。
			目録者間のみで見える“メモ”機能をシステムとして持つのが良い。例えば“○○に関しては書誌調整済“とか”情報不足で作成した書誌、書誌修正は作成館に協議の必要はありません“とか”△△についてよくわからないが. . . “とか。
			修正の履歴や書誌調整の記録がシステム上で確認できるとよいと思います。
			レコード調整を受ける場合、求められている対応が不明瞭な問い合わせが見受けられます。
			(8)レコード調整件数は不明（統計を取っていない）
			レコード調整で一番困るのは初期に作られた書誌。所蔵が最古なだけで、調整の矢面に立たされるのは負担である。
			多数の館が所蔵登録しているレコードについては、異議を唱えがたい。レコード調整の履歴を他館と共有でき、気になった点について調整済か未調整か判るといい。
			相手館の担当者が目録規則に熟知していないため，初歩的なことですら，話が通じなくて，調整ができない場合がある。結果として，不本意ながら，明白な誤りデータを修正しないで放置する結果になる。
			中国などの国外機関が作成した書誌レコードへの書誌調整が困難である。
			・レコード調整の履歴がわからない為，調整依頼を行うかどうか迷う事例がある。・相手館の，目録規則や調整ルールの認識不足により，調整に時間がかかる場合がある。
			明らかな間違いではなく、解釈の違いによる発見館の意見によって作成館に修正を打診することは、作成館の権限を尊重するという方針から外れ、労力的にも無駄である。
			レコード調整を受け付けると、むしろ勉強になってありがたい面もある。
			最近特に、洋書の流用書誌そのまま、全く修正することなく登録してある書誌が増えてきたように感じられる。単純な部分だけでも、流用の際にシステム上でもっと簡便に自動的に、規則に合うよう修正できるようにならないものなのだろうか。そうできれば、書誌調整の手間が大幅に減るし、せめて、注意喚起を促すエラーが出る程度でも、自館でのケアレスミス予防にもなるのだが。
			書誌のどの箇所にどこの館が修正を加えたか、分かるようにできないか。
			・書誌の同定を左右するほどでないレコード調整はやめることができないか。・タイトルのヨミへの記号の付与は不要ではないか。（検索上必要ないため）

区分	規模	種類	内容
レコード調整	A	国	古い資料の場合、書誌の記述自体があやふやな場合が多いが、そのような書誌調整で時間をとられることには疑問を感じる。例えば、～年以前の資料については書誌調整不要で発見館が修正できるというようにしてはどうか。
			刷と版の判断が難しい。
			参照マークを修正しないでそのまま登録した書誌が増えている。必要のない書誌修正報告が増えている。
			レコード調整を何度出しても回答がないことがある。情報源が必要と思われる時にも添付されていない場合がある。
			・レコード調整では、当館にはスキルがないといった回答を時々もらう。作成館による修正に限界がきているのではないか。・NIIから送付される振替依頼、現物確認が必要なもの以外全部振替済報告でいいと思う。
			1）多巻物のレコード調整については別のルールが必要ではないかと思う。理由：作成館が該当のVOLを持っていないとき書誌作成館は調整を受けても対応に困る。2）新規PTBLの作成についてはもう少し柔軟な対応をとるか基準の見直しをして欲しい。理由：市町村合併などによってできた新しい自治体が、古い自治体と同じ名前を使っていることがあった。その上、旧自治体名で出したと同じタイトルのシリーズを刊行して新たに1から番号を付与していた。そこで、新規のPTBLを作成したが、旧来のPTBLに統一するように求められた。
		私	①現物確認をしてルール通りに書誌を新規作成している機関、既存のNII書誌をルール通りに修正してNII書誌の品質を向上させている機関（いずれも本学！）に対して評価とメリットが欲しい。作成館であるための責任のみ背負っているのが実情である。例えばNII様および他機関様から情報源提出などの問い合わせが多く非常に繁忙である。明治大学はそれらの対応も誠実に行っているつもりである。しかし、その結果として本学の書誌作成が正しくても何のメリットもない。②目録情報の基準、コーディングマニュアルなどの改訂を進めてほしい。
			図書担当：和漢古書のルールに、実情に合っていないものやその現物を記述するためには意味のないものが多い。今となっては無意味な旧CAT時代のルール(新字体をVT:VT:で書く等、VOLを30でとどめる)をいまだにひきずっているカタロガーが多い。UTLが正確に活用されていない(あるいはその使い方が知られていない)。UTLの修正(CM第2部27-28章)について早く決めてほしい。SH:FREE:について、運用方針を決めてほしい。FREEをつけて書けば何を書いても許されると思っているカタロガーが多いように思う。もしくはLCSHやNDLSHの付与の仕方をNIIの責任でNCのカタロガーを対象に教育すべきである。雑誌担当：情報源不足による書誌が多く、（タイトルのみ等）現物の発行巻内号数等が表示されればいいと思う。
			書誌調整館で書誌の精密度や入力レベルに差がありすぎる。「こんな事まで」書誌調整が必要か，という事が時々ある。
			作成館の判断だけで調整を完了できない場合が大変多い。複数の作成館と協議が必要な場合は。NIIである程度、指針等を示していただきたい。
			近年、新規に作成された書誌レコードの記述に単純な誤りが多いので修正指針に従って図書現物を再度確認して書誌レコードの修正をできる限りするよう努めています。単純な記述漏れ、区切記号の間違いなどはもっと簡単に修正できるようなルールがあってもいいのではと思います。
			共同分担目録の性質上、新規作成館にとどまらず、発見館でも適宜修正できる項目を増やす方向で検討をお願いする。
			NACSIS-CATの講習会を受講しても，大学の人事異動が頻繁にあるため，落ち着いてスキルアップできる状態ではない。NIIで各大学が利用できるレコード調整の連絡ツールを作成してほしい。
			作成館に目録の技術が無い場合は、NIIの権限で書誌を修正していただきたい。

区分	規模	種類	内容
レコード調整	B	国	基本的に古いレコードを優先して書誌統合をされているが，後から作成された書誌が正規の書誌であったとしても，削除レコードに移行されている場合がある。また，所蔵館数の関係で古いレコードが削除レコードに移行されている場合がある。ローカル側のレコード調整に時間を要しない工夫をしていただきたい。
			参照MARCを無修正で登録するなど、基本的なスキルの低下を実感する事例が増えているように感じており、特に書誌調整には一定レベルのスキルが必要なため、調整作業自体が成立しないケースが出てくるのではないかと危惧している。 Q&Aデータベースは、目録規則の解釈のためのツールとして活用しているが、キーワード検索機能を強化していただければ、さらに有用になると思う。
			レコード調整に時間がかかる場合，調整中に問い合わせがある。書誌データのどこかに目録担当者のみ閲覧可能な備考欄が欲しい。初心者マーク（目録作成初心者の作成書誌なので発見館修正可ただし，作成館へ修正箇所と理由を連絡する必要がある）のようなものを作ってはどうか。また，講習会講師クラスのカタロガーによる添削指導制度など検討してはどうか。
		私	目録書誌作成において、ルールが細かい為、書士をNACSISに登録するにも登録後のレコード調整依頼など作成館の負担が大きいので、もっと誰もが簡単に修正し合える構造があればよいと思っております。レコード調整連絡が国立情報学研究所から送られてきますが、紙媒体ではなくデータで送ってもらえれば、業務ももっと効率的になります。
			単純な書誌作成やレコード調整なら良いが、複雑な記述が必要となる場合、作成に二の足をふんでしまいます。発見館が修正可で所蔵館に連絡しなくてもよい修正も今は所蔵館に連絡するのが通例となっているようです。連絡が多すぎると思います。
			「選択」の項目でも、入力しておいた方が良い場合（発売等）がある為、他の館でも柔軟に対応してほしい。書誌調整依頼で拒否されることがある。
			最近勝手に書誌を修正されていることが多くなっている（しかも誤った情報に修正されている）。そのことに関しての質問があり、判明する。
			流用データを修正せず登録する等、ずさんな書誌データが増加しているように思われます。ツールでは「みなし作成館」の特定ができない。
			見解の違いを主張されると折れてしまわざるを得ない。所蔵を削除し、ローカルを作成することもある。
			レコード調整で所蔵最古館の場合、書誌作成の経緯が不明の為、質問への回答が難しいことがありました。NCホームページの「図書書誌修正報告受付」フォームを使用後、いつどのような対応があったのか連絡が全くなく状況が分からないままとなるケースがある為、修正作業完了等の連絡メールを送信していただけると有り難い。
			多巻ものの書誌調整が難しい。相手館を探すのに時間がかかるうえに、調整に応じてもらえないこともある。また、目録規則やマニュアルの解釈に違いがある場合、回答に困ることも多い。
			書誌の作成にあたり参照するべきツールを知らない目録担当者が多くなっているように思います。どこかで覚えていただく機会があれば、レコード調整も減ってくるように思います。講習会で取り上げられないでしょうか。
	C	公	MARCのフォーマット変換を各大学で実施する必要があるか疑問。川上を統一すれば、レコード調整が効率的になると思う。
			正確さを求められる書誌の作成・修正を、現在の体制では時間をかけて行うことが難しく、消極的になってしまう。
			重複書誌や修正箇所を発見して修正、レコード調整等にかかる時間を考えると、ついそのままにしてしまう館も少なくないのではと感じます。

区分	規模	種類	内容
レコード調整	C	国	作成館から回答を得られず、次の所蔵館へ依頼しなくてはならない。シリーズものなど複数の作成館が関係する場合の依頼が煩雑である。なお、仕分けしなかった分をあわせた調整件数は、全体では521件になる。
			参加館が増えるにつれ書誌の質が低下してきており、レコード調整にかかる負担が増えている。
			目録登録業務について基本的な知識がない参加館が見受けられ依頼するにおいても受ける側においても、参加館同士のレコード調整が困難になってきている。
			新たな仕組みを作るならweb上で書誌調整ができる仕組みができるといいなと思います。規定のフォーム上で必要十分な情報を入力できると書誌調整もやりやすくなると思います。また、NII様が取りまとめて行う書誌調整も参加館ごとに必要なデータをダウンロードできるようにすれば発送の手間も省けるかと思います。
		私	書誌・新規作成やレコード調整を率先して行ってくれる図書館があるので、所蔵登録が効率よくできる。
			レコード調整依頼をした際、大学によって対応にすごく時間がかかる場合がある。
			参照MARCを流用した書誌の適正な修正が行われていないケースが多々あり（TRの監修者表記、区切り記号の修正、発売表記等）明らかに間違いであってもこちらで修正出来ない。
			NOTEフィールドとは別にレコード調整の経緯(履歴)を入力するフィールドがあれば良いと思います。特に洋書の刷や出版年に関するレコード調整を行う際に思います。
			レコード調整依頼時の問題点として、レコード調整連絡ツールに反映しないことがある所蔵館がある（メールアドレス無記入）ので、別立てで連絡しなければならない。
			過去に作成した書誌の修正を行った際に、所蔵館への周知が効率的に行えない。所蔵館の担当者のメールアドレスなど一つ一つ探す手間が合理的でない。所蔵館へNACSISを経て一括して周知できるネットワークがあれば合理的であると考える。
			所蔵登録や新規作成を外部委託にしている場合、作成者が現場にいない為、対応が遅れる。
			他の仕事が山積している場合、他館からの調整依頼が来ると書誌調整が最優先となり、負担に感じます。
			レコード修正の連絡が所蔵館にされるが、メールや封書など方法があるので統一してほしい。
			修正の権限を代表館に委譲する
			TRとすべきか、PTBLとすべきかの判断が整理館によって割れている場合がある。サブタイトルと思われるタイトルが標題として扱われる場合がある。
	D	公	作成館のミスか修正館のミスか分かりにくい
			NIIで一括して修正いただけると問い合わせの手間がなくなる。判断がゆれるものについては一定基準で対応を決めてほしい。

区分	規模	種類	内容
レコード調整	D	国	・遡及入力事業について、NII主導による外注形式ではなく、採択館で館内作業あるいは外注を裁量できるような費用配分にしていただきたい。遡及入力に限りませんが、外注頼みによる目録部門の縮小が、各館のスキル継承や人材育成を貧弱なものにし、ひいてはCATの品質低下を招いていると考えます。・レコード調整については、確かに煩雑な点はあるが、目録品質の維持・向上の点からすれば、方針や手続きの簡略化には慎重であるべきであると考えます。・平成21年に公開された「特殊文字・特殊言語資料（案）」について、必要であれば検討・修正を行い、早く確定し正式運用していただきたいと思います。
			重複書誌の統合は負担が大きい。所蔵付替えを依頼しても、処理が進まないことがあるため、削除予定レコードになかなか移行できない場合がある。また先に作成された書誌がどの程度まで優先されるのか判断が難しい。（後から作成された書誌の方が精度が高く、所蔵館も多い場合もあるため）
			・例えば、自館が作成館であるが、自館が所蔵していないVOLについて他館が修正をした場合、書誌調整を依頼されても現物がないため対応に困る。
			データの品質保持という目的はよく分かりますが、当館のように最小限の担当者でやっているところにとって、書誌調整は大きな負担になっています。また国情研の担当者の方に照会しても人によって回答が異なることがあり、困惑しています。最近はちょっとした誤字脱字でさえ作成館に修正依頼が行くようで、これでは新規作成するのが怖くなってしまいます。「発見館で修正可」のケースは作成館に連絡しない、マニュアルの「…することができる」等のあいまいな表現をなくす等を徹底していただけば、かなり改善されるのではと思います。
			TRに全タイトルがあるのに、背や奥付に副タイトルが無いからVT:STやVT:CLを付す例が見られるが記述の必要があるのか。ヨミの異なりアクセスで、VTが乱立（本タイトルのヨミ追加で、副タイトルまで全て表示する必要性がある？）VT:ORとNOTEの原タイトル等、自館の都合で情報重複のケースが多いが、情報を減らす修正は行わないという縛りで、修正・適正化に応じないケースが多い。
			最古所蔵館として連絡を受けた場合、現物を探すのに時間がかかることがあり、また既に廃棄予定の場合もあり、書誌修正に責任がとり難いと思うことがある。
			レコード調整の作業は煩雑だが、自由に修正されると困る
			修正館がある場合は，修正館がデータの責任を持ってほしい。
		私	・設問2-3（4）は、3)も該当します。・(8)レコード調整件数は、受付/依頼別のカウントはしていません。合計63件です。・発見館修正可事項を各館に周知してほしい。
			目録規則への精通の仕方に差があるため、自分達が間違っているのではないか？という思いもあり、依頼には勇気が要る。逆に、あまりにもずさんな書誌の場合は、該当館での教育、チェック体制の問題だと思うので放置することもあります。
			(8)レコード調整の依頼・受付件数ですが、集計をとっておりませんので未記入です
			1巻しか所蔵していないのに2巻以降のことは判断がつかないのに修正を言われることがあった。
			レコード調整の際、すべての所蔵館の連絡先を調べるのに手間がかかる。書誌を選択すれば、全所蔵館への連絡が一括で可能となるようなリンク機能を開発してほしい。
			既存書誌がある場合の同定で、特に内容が一部異なっていても重複を避けるために、安易に新規作成しないよう気をつけている。書誌によっては複数存在するものやら「NOTE」に注記されているものなど、一貫性に欠けていることが課題である。そのためレコード調整は品質の維持向上には大切なので、今後も必要に思う。

区分	規模	種類	内容
レコード調整	D	私	「発見館修正可」でも、他館の書籍に修正をかけるのを遠慮する館が多いような気がします。当館でも先行所蔵館が全く修正していない書誌をあえて修正するのははばかられます。
	他	高専	レコード調整を行ったあと、所蔵館への連絡がもっと簡略に出来るとよいです。
			修正の場合、どこまでの範囲なら発見館での修正が可能か。
		他	作成館で現物確認が出来ない場合、作成館で二館目へ問い直すとかなんらかの責任をもってもらえないのか。
			洋書の書誌調整には、洋書特有の問題が様々あっていつも悩まされる。たとえば複数国で出版されたり複数のシリーズ展開があったりと、VOL展開にすべきか別書誌にすべきか迷うことが多い。
		短	修正館がどこを修正したのか分かればいいと思う。修正館の履歴が分かればいいと思う。
			作成館ではないのに、現物所蔵が一番古いという理由から質問されることがありました。発見館修正可でも質問され、困惑しました。
			(9)でも回答いたしましたが、レコード調整依頼時、回答を得るまでに時間がかかる場合があり、迅速な対応を参加館に望みます。
			書籍以外のデータ(楽譜資料等)の目録を作成するのが難しい。試験問題等で毎年刊行される資料に細かい書誌の変更があった場合、新規に書誌を作成すべきかvol積みで対応すべきかいつも迷う。
書誌作成	A	国	まず，書誌作成について，問題として感じている点は以下のとおり。 ・書誌作成館に著しい偏りがあること。 ・発見館が修正できることも修正せずに，所蔵を付ける館が多いこと。気づいていないのは仕方ないが，定型的に行うことができること（例えば，遡及入力の注記の削除等）も行っていない。また，以下のような改善を図ってほしいと考えている。＜レコード調整関係＞・NACSIS-CAT/ILLの参加組織情報へのメールアドレス登録の必須化・不適切なメールアドレス記述のチェック（記述方法を間違っているものがかなりある）＜書誌作成関係＞・書誌新規作成時に基本的なことを機械的にチェックして（筑波大学附属図書館作成のCATLINTのイメージ），作成館にその結果をメールで連絡するサービスがあると，質の低下をある程度防げると思う。＜マニュアル関係＞・マニュアルのNOTE注記の定型語句等の例を増やしてほしい。・複数のマニュアルを参照しなければならい形式を止め，簡略マニュアルと詳細マニュアルの形式にまとめなおしてほしい。・『日本目録規則』や『英米目録規則 日本語版』も，NIIのマニュアルとリンクした形で，WEBで閲覧できるようにしてほしい。・WEB版のマニュアルから，関連するQ&A DBのリンクする仕組みがあると，さらに良いと思う。
			各参加館の遡及入力が進むにつれ、早い段階から遡及入力に着手し、新規書誌作成に貢献してきた館ほど、レコード調整の負荷が高くなってきている。自家製本が行われた資料群の書誌などが軒並み対象となり、しかたがないと思う半面、共同分担目録作業に対するモチベーションが、大規模館で相当に低下していることは否めない。
			規模等の制約から、目録業務上の疑問を身近に解決し難い作成館が多いと思います。作成前に疑問点を相談できる仕組が必要ではないでしょうか？
			洋書の版について、最近「ページ数が同一なら異なる版表示であっても同一書誌とみなす」例が他館であるよう、明らかに図版の入れ替わり等があれば、原則を崩すことがないようご周知くださることを希望します。
		私	書誌構造が複雑
	B	国	出版年やページ数の間違いなどのケアレスミスでも、それを確認するために時間と手間がかかるので、新規作成館は責任を持って作成を行ってほしい。
		私	書誌作成を躊躇させる一因として、書誌修正連絡に要する時間と労力の問題があると推察しております。
			重複書誌が多すぎる点、各館の都合で自由に書誌作成、追加等を行っている現状があり、国立情報学研究所の専門職員によって、常に作成・調整するのが、望ましい。
			重複書誌、データが不十分な書誌、コーディングマニュアル、目録情報の基準に沿わない書誌階層の書誌など、近年多く見られる。書誌作成の際は十分配慮してほしい。

区分	規模	種類	内容
書誌作成	B	私	レコード調整受付については、ほとんどが上書きで住むので楽である。書誌作成については、多少時間を要するので、ついローカルにのみ書誌をつくってしまう。
	C	国	書誌作成経験が浅いため、作成に相当の時間を費やしてしまう。同様の書誌の作成であれば参考にできるが、重複書誌か、別書誌かの判断も難しく、複数の人数で検討できる環境が望まれる。
		私	獣医学関係資料は、本学の責務と考えて、NACSIS-CATの書誌新規作成を多く行っている.
			・重複書誌や、その可能性がありそうな書誌が増えたような気がする。・作成前の確認を十分に行えるとよいかもしれない。
			小さな大学では担当者が図書館業務を兼務しているので、書誌作成にだけ時間を割くことが難しい。書誌作成はNIIの委託を受けた書誌作成をよく知っている機関に依頼（有料）できるようになると大変助かります。
			設置母体が刊行者の場合など、どうしても新規作成の必要が生ずる場合、既存サンプルを参考にした消極的な書誌記述となっている可能性があります。
			書誌作成について、MARCをそのまま流用して作成するなどルールを理解せず作成している書誌が多く見受けられる。
			書誌作成について：一般に流通していない大学刊行物については、書誌作成の必要性を感じます。
			書誌作成者のスキルアップが必要ではないか？また、年々レコード調整の件数が増えているように思う。たしかに、登録件数が増えているので仕方がないのかもしれないが、作成時の単純ミスも多いような気がするので、書誌作成時は慎重にしたいものだと思う。
			特殊な書誌、難しい書誌作成などは、作成館のミスに気づいていただけるのなら、参考になる書誌修正を教示していただけるとありがたい。習熟度の違いがあるのは明らかであり、本来の相互協力の精神をもって対応していただきたい。
	D	公	原則として新規書誌作成も行っているが、時間がかかるので、人手のある図書館でないと困難である。
			書誌作成について，ルールにあいまいな点が多く，また各館で解釈が異なるため，作成された書誌の内容に統一性がない。もっとルールをわかりやすく，明解にしてほしい。
		私	書誌作成について解釈の違いがあるので新規作成に踏み切れない。目録のルールが細かすぎてわかりにくい。
			書誌作成もなかなか行なうことができず、利用させていただくばかりで申し訳ございません。
			本学のような小規模校には目録専従のスタッフはおらず、カウンター業務をこなしながら所蔵登録や書誌登録を行っている現状である。参加館全部が登録の義務を負っていることは理解しているが、正直に言って目録専従者に比べスキルが劣っていると思っている。しかし本学しか所蔵していない資料もあり、書誌作成せざるを得ず、どうしても最低限の内容しか入力できない。またこのような状況から見て作成した書誌についての責任が重すぎると感じている。
			必要に応じて書誌作成や修正をすると回答したが、これは方針に過ぎず、実際には作成件数は僅かである。CATにほとんど書誌があるので作成する機会がないこと、作成のための時間的な余裕がないことがその理由である。
	他	共	同一出版社がいくつも同じようなシリーズを出していて、PTBLと子書誌のリンクがまちがっているものがある。

区分	規模	種類	内容
書誌作成	他	高専	高専図書館のような小規模館ではまだ書誌作成スキルが十分にない職員が一人で目録を担当していることが多く、質の高い書誌を作成することが難しい現状にあります。
			多刊ものの書誌が統一されているものやバラバラなものがあり、わかりにくいと思います。
		短	事前調査・依頼文作成などの手間は、慎重に対処すべき事柄について用意しているので、必要なことと理解している。また、コーディングマニュアル21.1.B修正事項一覧に沿って調整しているので、他館とのトラブルは特に発生していない。
			・書誌作成時の規則が細かすぎる。簡素化してもらいたい。・同じシリーズで出版されている書籍も，いろんな書誌作成をされているものがあるため著者記号の取り方によってはシリーズ分類ができなくなってしまうパターンがある。
参加館の対応	A	国	自信を持って回答や調整をするには、目録規則等の確認に時間がかかりすぎる
			時間と手間がかかりすぎる。参加館の増加・目録担当者の減少・外注化等の複合要因により、レコード自体の品質低下を招き、最終的には利用者の利便性に悪影響を及ぼしている様に感じられる。
			NIIの対応（QA＆C)が遅すぎる
			小規模な図書室のため、書誌作成やレコード調整の機会が少なく、知識や経験が増えないために、業務の負担を感じている。
	B	国	問い合わせをした時に、面倒がらずに対応していただきたい（他館さまへの要望）。当館も反省しなければいけないが、品質の低下を感じる。
			お互いの認識や見解の相違が、担当者にとって非常に大きなストレスとなっている
	C	国	参加館の連絡先にメールアドレスが記入されていない機関があり不便。必須項目にしていただきたい。
			目録規則や書誌の記述について精通している職員の確保、養成が急務だと思われる。
		私	相手館と連絡がとりにくい場合や、意見の溝がうめられない場合に、NIIに関与していただければありがたいです。
			以前より連絡もスムーズになっていると思うが、連絡する側は大変なのではないかと思います。
			基本的なルールに従っていない箇所が複数ある場合は、どの程度説明すればよいか迷う。海外の機関で作成された書誌データを調整するには、当方の語学力が不足している。
	D	国	書誌作成・修正にしろレコード調整にしろ3・4日の研修を受けたからといってできるものではないと思います。何らかの形でフォローアップできないものでしょうか。
		私	小規模図書館では目録以外にも担当する業務が多く、専念できないため、返事が遅くなりがちになる。他館の問い合わせに早く応えようというプレッシャーは高く、自然と新規作成が億劫になってしまう。
			レコード調整に対して、前向きな館と消極的な館との不統一感
	他	共	調整の連絡をNIIのコンテンツ課が行うようになって大変楽になりました。今後も引き続き実施されることを希望します。
		高専	図書館職員の人員削減により、これまでのような厳密・緻密な対応は難しいのではあるまいか。

区分	規模	種類	内容
参加館の対応	他	他	他機関に所蔵のない資料についてできる限り登録したいが、責任が大きく集中力と時間を要するため他の業務の合間に作成するのが難しい。
		短	年度末のレコード調整（2月、3月）は職員体制の問題もあり中々手がつけられない。
マニュアル関連	A	国	書誌作成等の作業手順が、解りやすく書かれたマニュアル或いは必要項目がシステム上で選択式入力等が可能になれば作成していきたい。
			よく経験する事例なのにコーディングマニュアルに載っていないことがある。（例：出版年の違うhbkとpbk）Q&Aでよく挙がる事例はコーディングマニュアルに載せるべきではないか？
	B	私	NIIに対してQ&Aや重複報告を提出しても対応が遅い。コーディングマニュアルに記載されていない場合はQ&Aで調べるようにしているが、そのQ&Aが調べ難い。
	C	公	ILLのように、書誌修正等についても、システム上で参加館とのやり取りが出来れば楽なのではと思う。また、目録の修正事項一覧を確認していない（知らない）方が多い。書誌調整の画面に、「連絡する前に修正事項一覧は確認されましたか？コーディングマニュアル21.1」などのアナウンスがあれば発見館修正可の問い合わせを防げるのではないか。また、修正事項の具体例（別紙でも良いので）があれば分かりやすいと思う。書誌作成については人の入れ替わりも多い事から目録作成技術の継承に不安を感じる。また、コーディングマニュアルのボリュームが多いため、付録など参考にできていない場合がある。コーディングマニュアルの解説（付録コードはどこにあるや、新規書誌についてはここのような簡易解説）が必要と思う。ぜひ検討いただければと思います。奈良大学様で作成されている「図書書誌情報源一覧表（http://library.nara-u.ac.jp/nara/topics.htm）」が非常に分かりやすいので、NII-CATのドキュメント→その他でも良いので加えて頂ければ嬉しいです。
		国	目録規則とコーディングマニュアルが煩雑で分かりにくい。書誌作成にあたっては、統一したマニュアルが必要。
		私	調整のやり取りの中で、マニュアルを読む機会ができ勉強になる。
			目録規則・コーディングマニュアルでは判断が付かない場合にQ＆Aを参考にしていますが、回答が「各館の判断に基づく」であると、それ以上に参考にできる資料がありません。「各館の判断に基づく」との結論になる場合は、複数の対応例とその根拠を記載していただけると嬉しいです。
	D	公	マニュアル等を読んでも分かりづらい事がある。実例をもっと取り上げてほしい。
		国	レコード作成から長い年月が経ってしまい、作成・修正の経緯が不明になったレコードの対応が難しい。コーディングマニュアルの改訂以前のレコードで、修正を行わないはずの点について修正を求められることがある。
		私	レコード調整の連絡ツールの存在は知っているが、具体的な使い方がよく分からないため、利用時に気が引けてしまう。簡易マニュアルが欲しい。（小規模な図書館なため、相談できる相手がいないため）
	他	高専	書誌作成の基本的な注意事項を箇条書きした簡単なマニュアルを作成したらどうか。今は、人員削減で、大きい図書館と違い、1人で全業務を担当しており、目録だけじっくりやれる環境にないので、目録規則やーディングマニュアルを1から読んで勉強する時間がない。
		短	目録作成が苦手です。現在は図書館業務を一人で行っているため、作成や修正方法を尋ねることも出来ず、途方に暮れる時があります。研修にもなかなか参加出来ないので、初心者向けのマニュアルを作ってほしいです。

区分	規模	種類	内容
運営関係	A	国	＜OCLC MARCの利用制限について＞本学ではOCLCのWorldCatを契約しているため、NCからの検索や流用をせず必要に応じてWeb画面からコピー&ペーストしている。今後、他のMARCでノーヒットの場合に限ってOCLCに遷移し、制限なく流用できるとありがたいです。
	B	国	電話、FAXの時代に比べると、メール、ツールの整備で、格段に環境がよくなった。
		私	CHMARCをもう少し多く格納して欲しいです。現状では、CHMARCにない書誌の登録を行う場合が多いので、OCLCを利用させていただいております。
	C	私	非常に面倒です。
	D	私	利用者が現物を探し出すことが著しく困難である書誌レコードを作成せざるを得ない目録規則を盲目的に墨守することは無意味であり，誰の利益にもならないばかりか，誰も幸福になれないことが最大の問題。
			同一館に対して複数件、調整の必要があると躊躇する
			複雑かつ細かく、利用館での利便にはうまくつながりづらい気がします。
	他	共	自館で気づかずにいたことを指摘してもらえるので助かっています。
		短	NIIからの調整指示について、特定する際には時間を用意するので作業用ページを作ってください。URLを指示していただきたい。

2-4-(4)　事前登録書誌について、ご意見があればご記入ください。

区分	規模	種類	内容
事前登録書誌支持	A	国	問題のあるレコードがかなりあったと思われる。参照マークに準じる扱いとし，最初の所蔵館がレコード調整なしに修正できるようにすれば，それなりに使えるものになると考える。
			事前登録書誌なので、入力内容に間違いがないようにしてほしい。
			作成館になるか、所蔵最古館になるかの差なので、レコード調整の手間はさほど変わらない。
			事前登録書誌については、大変有効だと思います。今後も大いに利用させていただきたいと思っております。
			ぜひ、完全実施して頂きたい。
			事前登録書誌への書誌調整についてFAQだけでなくコーディングマニュアルなどへの掲載をお願いしたい。
			目録担当者がNIIの目録システム講習会等を受講していない場合、有益であると思う。
			事前登録書誌は有効だが、現状どおり自由に新規作成できることも必要である。
			継続を希望する。
			書誌調整が必要な場合、NIIにすればよいので楽だった。今後も続けてほしい。
			書籍のゼロからの新規作成には時間がかかるので、もととなる書籍データがあると助かります。
		私	本格的運用を期待しています。
			ヒットすれば有効なため活用はするが、NIIへの書誌修正依頼が必要なケースが一定あり、その負荷は小さくない。一館目の登録であった場合は修正をその館でしてもよいなどの運用変更が可能であれば、少し負荷が少なくなると思われる。
			次世代目録所在情報サービスの実現を期待している。
			登録するのであれば、規則に則った正しい書誌を登録していただきたい。最初に所蔵を登録する館が自由に修正して良いことにしていただきたい。
	B	国	参加館の負担軽減、品質を保つためにも有効だと思っています。
			研究用図書や学生リクエスト分については、できるだけ早く利用者に渡すために、NCに未登録の場合は新規作成するが、発行後1週間程度で登録されるのであれば、事実上、ヒットするケースが増えることで省力化が期待できると思う。
			書誌調整が必要な書誌が複数あった。事前登録書誌は「最初の所蔵館が現物を元に修正可」とした方が良いように思う。
			是非継続して登録していただきたい。
		私	事前登録書誌は、何を情報源として作っているのか分かりません。システムとしては、年度末時期には非常に便利だと思います（時間が無いため）。
			確認画面を見たところ、2-4の(3)の3)その他の回答入力ボックスに記述した内容が反映されておりませんでしたので、念のためこちらにも記述いたします。「受入までに1週間程度は経っていると思われるので、受入時に事前登録書誌が登録されていれば、利用する。登録されていなければ先に新規作成する。」
			書誌修正依頼から解決まで、時間がかかりすぎると感じました。本格的に導入される場合、対応される人数等をご検討いただければ、と思います。

区分	規模	種類	内容
事前登録書誌支持	B	私	新刊(和)を受入することが多いので、今後事前書誌が増えると業務を進めていくうえで、非常に効率が上がります。
			有効だと思える。続けてもらいたい。
			今後も継続し、冊数を増やして事前登録を行っていただきたい。
			書誌調整がこれまで以上に発生する可能性が高くなると思う。
			最初の所蔵登録館が必要な修正を行うのであれば有効かと思います。色々と思うところはありますが、特に試行時のように事前登録書誌であることがはっきりとわからないのであれば、多くのレコード調整が発生するように思います。運用するに当たっては必要十分配慮がいるように思います。
	C	国	1から新規に書誌を作るよりは、楽になると思う。
			新規作成書誌を少しでも削減することができ有用であると思われる。特に電子ブックを重点的にお願いしたい。
			事前登録書誌を進めていただきたい。
		公	(11)と重複するが、書誌作成元は絞り込んだ方が良いと思うので、期待している。
			事前登録書誌で書誌調整が複数館との間で必要な場合、どのように調整して良いかわからず困るかなと思いました。ただ、試みとしては非常に助かりましたので今後とも期待しております。
		私	検索できるのはよいが、内容があまり有効ではない。修正に手間がかかる。
			事前登録書誌が増えればありがたい。
			NOTE欄で可能な限り注記を入れて欲しい。(参考文献掲載のページ表記等)
			所蔵登録が迅速に行われるようになるので良いと思う。
			登録作業が早くなり、業務に有効的である。
			事前登録書誌が登録されていれば、業務の負担及び責任の負担が軽減される
			NIIで、可能な限り書誌の事前登録をしていただければ予算規模の小さな図書館は大変助かります。
			とてもよいと思います。
			良い企画だと思います。
			事前登録書誌は、書誌作成をあまり行わない館では、書誌検索・同定作業を行うことで、自館の目録作成が行なえるので、たすかります。
			作業時間短縮になり助かります
			新刊の和書だけでも事前登録書誌があれば、目録業務の作業軽減になるのではないかと思う
			非常に有効である。カタロガーの技術の養成や継承でいえば、書誌登録をする機会は必要不可欠であるが、今日本学図書館のおかれている現状では(司書資格をもった専任職員がいるとはかぎらないこと、年々人員削減されてきていることなど)、職員が運営・企画などの業務を優先的に従事せねばならないなかでの、図書館資料の整理となり、書誌作成まで手が回らないのが実状である。
			書誌の質が統一されるので、とても良いと思う
			事前登録書誌への書誌調整は、他大学図書館に対する書誌調整と同じくらいの手間がかかり、さらに、情報源を送る手間がかかります。もう少し簡略化できないものでしょうか。

区分	規模	種類	内容
事前登録書誌支持	C	私	事前登録書誌の作成により目録の品質が保たれることを期待している。
			各図書館の目録作成の負担が軽減され、目録業務の効率化につながる。
			非常に助かります。
			目録作成のスキルを持った職員が不足する中で、NIIの作成する書誌ということで、その室が担保されることになり有意義なことだと思います。
	D	国	CLS, SH, CW, AL(典拠)の登録が充実しているか否かで、利用方法も違ってくる。既登録の修正より、参照MARCのコピーの方が楽なケースがある。。
			重複書誌が作成される確率が下がる
			当館の場合、発注～受入処理に1週間以上かかるので、和書の大部分については事前登録書誌が先にできている状態になると思う。
			試行中は大変助かりました
			ぜひ本格運用に移してほしい。
		公	書誌の質の確保（一定より下にいかない）という点で非常に有益かつ有効な制度なので、是非とも今後も継続をお願いしたい。
			事前登録書誌は、場合によっては修正の必要なデータも見受けられることから、当館では参照MARCと同様に考えているが、昨今のデータ品質を考慮すると有効であると思う。
			新規作成を行うことが困難な図書館においては、所蔵情報をアップロード出来ないローカル書誌で登録を行う必要がなくなり、有用であると考えます。結果としてILLでの所蔵館の増加等、サービスの向上が図れるのではないでしょうか。
			新規作成は労力・時間・気力を大変消耗するため、事前登録書誌は今後も続けてほしい。できればもっと短期間で登録してほしい。
			正確な内容の書誌が事前に作られているのであれば，図書館の負担（作成・調整）が減ってよいと思う。
		私	修正が大変なので、全て事前登録書誌にしていただければ助かります。
			NIIに作成していただくことにより目録の質の均一化が保たれること。レコード調整を個別にしなくても良いことになり、目録作業の負担が軽減される。
			人員削減の中、目録業務を行える職員に限りがあるので、小規模図書館に取っては有用である。
			標準書誌として有効だと思う。今後も続けてください。
			書誌データはNACSISを頼りにしているので大変助かる。
			個々の図書館の省力化が図れてよいことだと思う。
			人手が少ない図書館では、事前登録書誌データは非常に助かるので、是非つづけて欲しい
			事前登録書誌はあれば有用だと思います。
	他	短	事前登録書誌が早ければ早いほど助かる。
			事前登録書誌は、書誌に統一感が出るので非常にありがたい。今後もっと事前登録書誌の数を増やしてほしい。
			発見館修正不可も含めて修正の必要な箇所が多々ありました。運用を開始するのであれば、もっと正確なデータ作成を希望します。

区分	規模	種類	内容
事前登録書誌支持	他	共	大変助かります。今後ともよろしくお願いいたします。
			灰色文献に関するデータにも着手してほしい。NIIで作成するのが難しいのであれば、刊行した機関に責任を持って入力してもらうよう推奨してほしい。
			参加館すべての認識として、参照マークを流用しているくらいの意識をもって書誌データを扱うのであれば有益であると考えます
		高専	書誌事項に修正が入らないのでしたら有効な手段だと思います。
			図書の発注・受け入れがスムーズになってよい。
			目録担当のいない当館にとれば、とても有難い。
			本校図書館は英語多読図書という英語学習用の洋書が多いため、洋書も事前登録書誌が少しはあると助かる
			統一されたものができることはとても便利でいいと思います。早く、始めてほしいです。
			ローカル・オリジナル書誌作成を減少させるため、今後ともぜひ利用したい。
		他	JPマーク、NACSISの統合はできないのか。
			洋書についても、ご検討いただければと思います。
			CIPのような制度でしょうか。日本の文化基盤の充実のためにも、是非、推進してください。
事前登録書誌不支持	A	国	VT, PTBLに関して、修正するケースが多い。
			参照MARCとの差異が不明確。事前登録書誌であっても、修正が必要な場合に書誌調整の手続を踏まなければならないのならば（試行の際にはNIIへの連絡を求められました）却って業務量が増えて作業効率が下がるのではないかと懸念します。
			1）事前登録書誌の性格が伝わっていなくて、現場は混乱した。2）今回のように本書誌に「責任の所在や記述内容があやふやな」別レベルのものがそのまま記録されてしまうことは、現行のレコード調整の責任体制を混乱させることになり収拾がつかなくなるのではないかと思う。3）事前登録書誌を作るならば、参考書誌とするべきだと思う。
			サービスサイドで混乱が起きたと聞いている。CATサービスのメインターゲットがどの館種であるかを考えたら不要ではないかと思う。
			確かに，省力化になるだろう。しかし，確実に目録作成能力が退化する。これ以上書誌データが荒れることには反対です。
			NIIの所蔵が削除されてしまうと、所蔵IDの最も小さい館が作成館とみなされます。すると目録作業に精通していない館が作成館となることも増え、書誌調整に問題が生じる場面が出てくると思われます。
			書誌の新規作成機会の絶対的な低下は目録担当者の知識および技能の低下につながり、将来的には書誌品質の低下につながる恐れがあると考える。
			「NIIが登録した書誌」という思いから、登録する館は修正に消極的になるのでは。参照ファイルとの違いがわからない。

区分	規模	種類	内容
事前登録書誌不支持	A	私	事前登録書誌は「参照ファイル扱い」とし、利用するさいは「書誌流用作成」の方法にすべきと考える。この方法をとれば作成館はルールに即した書誌作成を担うことになり、相応の品質は保つことができると考えられる。ただし「書誌流用作成」の方法をよく理解していない機関もあり、そのことはNII様より積極的なフォローをすべきと考える。現状は登録されている書誌データに誤字脱字、記述ルール全般の間違いがあっても、そのまま放置されて所蔵が多数ついている。それらの間違いについてCRTFAであるNII様にレコード調整をしてもすぐに回答や修正がされない。おそらく所蔵最古館様は、参照ファイルの書誌でないことから、「自分は作成館ではない」と考え事前書誌の検証もせずに所蔵をつけていると考えられる。これでは書誌データの責任をどこが持つのか不明確であり、書誌の質が低下する一方である。学術情報センター時代の「東大レコンデータ」による混乱と同じような現象がおきると考えられる。
			書誌として精度の高くないものも見受けられた。また、現物確認のできないNIIに質問をするのもためらわれた。
			精度の低い書誌があった。
			図書担当：CIPデータの一種でしかないものを推進することは、洋図書のようなデータを信用しない態度と矛盾するものではないか。雑誌担当：本の発注には効果的ではあるとは思うが、現物を登録するうえでどの程度信頼性があるかがちょっと疑問に思う。事前登録性があることで、その後の更新やDLが遅れていくのではないかと思う。
			書誌が未完成のため修正等に手間を要する。
	B	私	MARC書誌を使用したりするので、それほど事前登録書誌の必要性を感じない。
			事前登録は何を基に作成されるのか。現物入手後に書誌、内容の変更・修正が全くないとは、限らないと考えられると思います。
			書誌調整が必要となる場合が多々あるので、やはり現物資料を手元にして書誌作成を行った方がよいと思います。
	C	私	事前登録書誌ということに気がつかず、そのまま所蔵を付ける失敗をしたことがあります。
			NACSIS-CATの品質に沿えるかが疑問です。
	C	私	業務が煩雑になる可能性がある。
			NIIの基準通りの書誌なら、ほかのマークより修正が少なくてよいと思うが、修正箇所があった場合、修正依頼をかけなければならないのが手間に思う。
	D	公	そのまま所蔵をつければ利用できるものでなくては従来の参照MARCと変わらないため有効とは言えない。
		私	・現物を見ながらの書誌作成が確実のように思う。
			事前登録書誌と新規登録書誌が混在しているケースが見られ、一見重複書誌のようになっていたので、担当者が混乱しかねない。
	他	高専	書誌の新規作成は大丈夫だと思うが、VOLの修正にも生かされるのかが疑問として残る。
		他	試行の時点であまりヒットしなかったので、内容について現物との違いを確認できていません。MARCのように、修正が必要なものが多ければ役に立たないのでは、と思います。

区分	規模	種類	内容
その他	A	国	特になし
			事前登録書誌を登録するのであれば、TRCMARCのデータと同等のスピードでお願いしたい。
			参照マークとの違いがよくわからない。試行後の参加館の感想が知りたい。試行作業の全体的に宣伝、説明不足。
			図書整理等の責任の所在が不明確。（最初に登録した館が結果として責任が出る。）
		私	特にありません。
	B	公	(2)の設問に「いいえ」としましたが、知らなかったので有効かどうかの判断はできません。
		私	特になし。
			書誌調整時に連絡すべき作成館が不明確である。
	C	国	なし
			特にありません
			特になし
		私	特になし
			・出版社、図書館、双方の考える「件名」に相違が感じられる。
	D	私	なし
			特にございません。
			特になし
	他	短	なし
			特になし
		高専	特にありません。

4-(7)　NII の研修に対するご意見があれば、ご記入ください。

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
講習	A	国	○				システム講習会のほかに、目録規則そのものを学習する講習会が欲しい。
			○		○		中級者用研修があるとよい。CATのようなユーティリティを続けるのなら、NIIがひたすら避けていた「目録の講習」が必要だと思います。
			○				目録講習会の研修内容に書誌調整についても盛り込んでいただきたい。
					○		中級者向けの実際のケーススタディのような研修を設けてほしい。
			○				目録記述そのものに関する研修もしてほしい。
				○			グローバルILLに焦点を当てた研修があったらいいと思う。スキルアップの為だけではなく，他大学の様子を知ることが出来たり，横のつながりを作るいいきっかけの場でもあるので，研修を行う事は重要だと思う。
			○				目録講習会は、NIIや周辺大学の協力で、もっとたくさんの大学で開催したらよいと思う。(非常勤職員も受講できるように)
							古典籍等については競争率が高く、受講しにくい状況です。関係機関と調整し、もっと受講しやすくしてほしい。
		公		○			中規模・小規模館ではCAT/ILLへのニーズが大規模館とは異なっている。それに見合った講習会が必要である一方、その拠点となる参加組織にはNIIから人的・金銭的な援助を求めたい
		私			○		図書・雑誌コースは本当に基本的な講習なので、初級→中級→上級コースがあるといいと思う。
						○	次年度のスケジュールを早期に発表して欲しいです(学部図書館への周知のため)
							研修会を増やしもっと多くの人に参加できるようにしてほしい。実務で確認した後もう一度講習に参加したい、
					○		中級レベルの実践的な研修を行ってほしい
					○		業務経験の有無や、習熟度別にクラスを分けて開催していただけると、研修効果が上がるのではないでしょうか。
			○			○	目録システム講習会(図書・雑誌)の地方での開催回数を増やしてほしい。
						○	開催回数をもっと増やしてほしい。
	B	国	○			○	本学では、3～4年に一度の割合で地域目録講習会を開催しているが、年々講師や補助者の確保が困難になりつつあるので、地域講習会の将来の在り方について検討して欲しい
						○	地域講習会については、年々講師、補助者の確保が困難な状況になりつつあるので、 地域講習会の将来のあり方について検討して欲しい。
		公		○			海外機関とのILLに限定した研修(支払い方法についても解説していただきたい)
					○	○	①初心者向けの研修ではなくスキルアップ向けの研修会②参加しやすい地域別研修③丸1日の研修会、で企画していただけると助かります。
		私					東京開催の研修参加は、費用・日程等で難しいことが多い。資料等を公開してもらいたい。
			○			○	本学では図書館職員は固定されておらず、図書館勤務経験のない職員も配属されることから、ほぼ毎年研修を受講させていただいている。学内での研修や引き継ぎ等には限界があるので、ぜひ今後も受講の受け入れをお願いしたい。また、可能であれば雑誌コースの目録システム講習会を名古屋地区でも開催していただきたい。
					○	○	・初心者用だけでなく、上級者用研修など、段階を踏んだ研修があるとよい。・希望者が全員受講できるようにしてほしい。・名古屋会場を増やしてほしい。
					○	○	初心者向けの講習会の場合、4月中の開催が望ましい。

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
講習	B	私	○				NIIの研修に対して過剰な期待（目録の講習会だと思っている？）をしている管理職が多いのも事実としてありますが目録担当者への適切な研修のあり方を模索していたければと思います。
							電子情報資源に対応するコーディングマニュアルを早急に作成し、それに基づいた研修を要望します。
				○	○		ILLの研修会を年1回だけではなく、レベル別に2,3回ほど実施してほしい
	C	国				○	希望しても受講できないことも多いので、開講数を増やしてほしい。
							セルフラーニング教材の受講を前提として研修プログラムが以前よりも簡素化されているが、セルフラーニングはあくまで自学自習用ツールとして使用し、講習会場でのプログラムを以前のように充実させて欲しい
							・研修受講により思わぬ収穫もあり得るので、今後も研修の継続を希望する。・研修会前に業務を経験しているか否かで実習の進行具合に差が生じてしまうので改善を希望する。
							昨年4月採用の正職員(図書担当)が受講を強く希望しているが、毎回選に漏れている。遡及入力の業者スタッフが多数受講しているとの噂も聞こえてくる。
							実践的な内容で役に立つので、今後も続けてもらいたい
				○			研修参加だけでなく館内全員での研修対応として講師派遣を行ってほしい。（CAT/ILLすべてに対応した研修として）
			○				目録の講習会だけでなく、勉強会等もあれば参加したい。
						○	地域講習会を増やしてほしい。
		公		○			ILLにおけるマナーについて教える講義がほしいポリシーをよく読んでから依頼する　等
						○	離島県でも研修を行ってほしい。
		私	○				今年度始めに業務分担の変更を行い、該当者のNIIの目録講習会（図書）の参加申し込みをいたしました。しかし、その者は1年前に雑誌の講習会を受講していた等の要因から数度参加不可となり、結果的に遠方会場への参加となりました。NII講習会が人員超過である場合には、何かそれを補完できる研修・手立て等を案内いただければと思います。
						○	授業開講機関を除いた時期の回数の増加
					○	○	もう少し頻繁に開催してほしい。もう少し上級レベルの講座があっていい。
					○		担当2～3年経過時のフォローアップ研修のようなものがあると嬉しい。（半日位）
						○	職員が少ないので、出張を伴う長期の研修会に参加するのは難しい。NII研修会が地元（県内）で隔年にでも開催されると助かります。
							講習に参加する手間がかけられず、短期間に、必要最小限な範囲を、実戦的に学ぼうとすると、どうしてもNIIの研修より、現在の図書館システムと連動する専用ソフトのインターフェイスに依拠した説明を求めてしまいます。そして業者から伝授された最小限の知識でとりあえず日常業務が事足りてしまうと、改めて原理的な理解を深めたいというモチベーションも生じない、というところが現状です。
			○				毎年、目録（図書）の希望を複数名出していますが、受講できない場合が多いです（この3年間に1名受講）。
			○				各受講会での定員が少ないように思いますので、改善を希望いたします。目録システム講習会で、受講暦のある人は優先順位が下がってしまいますが、理解を深めるためにも受講する機会をもう少し増やしてほしいです。また、近年講習会の内容が充実しているようなので、それ以前の受講者にも受講の機会が広く与えられると嬉しいです。
					○		数年の業務経験後、再受講ができるようにしてほしい（できれば、レベルを分けて実施してもらいたい）

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
講習	C	私	○	○			小規模大学の職員が受けやすい研修をお願いしたい。広く、浅く最低限度理解しておいてほしい内容で、目録システム（図書・雑誌）、ILLを3日間程度で。それも連続3日間ではなく実施してほしい。
						○	各地域で小規模な研修回数を増やしてほしい。
				○		○	離島など地方での開催を増やしてほしい。また、ILLの講習会の枠が少ないように思う。業務に従事するためには講習会参加が前提であり、参加できない年は業務に従事することができず、担当者不在の際のサポートなど日々の業務に不都合が生じている。
			○		○		図書目録の講習会の中級編もしくは上級編を開催していただきたい。
						○	土・日も行って欲しい。テキストを冊子で欲しい。
	D	国				○	現在よりもっと多くの人数が参加出来るように機会を増やして欲しいです。実情としては難しいと思いますが、現在より減らすことだけはないようにお願いします。
					○		システム操作レベルの基礎的な研修は、e-learningで代替可能と思います。むしろ各業務の基幹職員を育成するための研修にシフトしていただきたい。
						○	主要都市ばかりでなく地方でも研修を行ってほしい
			○		○		目録システム講習会…著者典拠レコードの作成や件名付与についてなど、中級レベルの研修があるとよい
		公			○		各所属図書館によって、規模や業務分担などの運営体制が異なる為、参加者の熟達度合に差異があるかと思います。基礎知識に関しては、セルフラーニングによる事前学習によってある程度一律化されますが、その後の研修については、レベル分けをした開催をしてはいかがでしょうか。そうすることで参加者から質問も発し易くなり、各レベルからの引き上げがよりスムーズに行えるように感じます。
						○	地方で開催される研修会の受講人数を増やしてほしい。
						○	・もう少し拡大し、多くの人が受講できるようにしてほしい。・実務にそった事例をもっと増やしてほしい。・電子ジャーナル（ブック）等、新しい媒体に特化した講習会を開催してほしい。
						○	地方開催を増やしてほしい
		私			○		一人の人間が”雑誌”を受けると、”図書”を担当することになった時、研修を申し込んでも選に漏れてしまい受講することができない。また、初級・中級コースとレベルにあった研修を行ってほしい。
			○				NIIでの研修前に目録規則等をある程度学習した上で参加しないと、きちんと習得できないと思う。目録業務を行っていて、かなりおかしい書誌データを発見することがあり、ローカルで修正することが多い。
			○				中国語・韓国語等の図書目録研修会があれば、参加したい。
					○		経験年数に関わらず、ブラッシュアップのための研修会を開催するか、再度のNII主催の研修参加を認めてほしい。より理解が深まると考える。
						○	地方でも開催してほしい
						○	国情が主催する研修会ほど立派なものでなくても、県ごととかで簡単な研修会とか講習会とか勉強会があると嬉しいと思う。大学図書館協議会とかの講習の講師とか…
					○		受講経験者が知識をより確かなものにするために、再度学べるシステムがあればと思う。1回の講習会参加で全て理解し実践していくのは大変なので。
						○	地方でも行って欲しい
	他	短				○	選にもれた人が多いので、回数等を増やしていただきたい。
					○		初めて図書館業務に携わる職員が異動で配置されるため，入門編のようなコースを作ってほしい。

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
講習	他	短				○	①受講希望を出してもなかなか選んでもらえないので、回数を増やしてほしい。司書が一人だけの職場では、人から学べる機会がほとんどないので、研修は貴重なチャンスである。その後の図書館運営のレベルに如実に反映されるので、切実な問題である。②年度のはじめ3ヶ月ぐらいは忙しすぎて、参加できないまま毎年終わってしまうので、夏休みなどの長期休暇中にもっと開催してほしい。
					○		レベル別再教育コースの設定を希望します。
						○	開催地や開催回数を増やしてほしい
			○				目録システム研修は、図書・雑誌双方を受けられるようにして欲しい。また、継続的かつ応用的、中堅対象といった研修も行って欲しい。
					○		入門的な内容の研修が多いように感じます。中堅職員向けのステップアップ研修があるとよいのではないかと思います。
		高専			○		受けたら終わり、ではなく受けてからがスタートなので受講後のフォロー体制がしっかりあるとよい。
						○	細かい地区ごとに分けて開催していただけると、参加がしやすくなる。（出張費等の関係により）
					○		初級・中級などレベル別での開催や、普段一人で担当しているような小規模館向けのより詳細な研修を希望します。
		他	○		○		目録研修について。初級、中級、上級、和書、洋書等別で、スキルアップできるような研修をお願いしたい。
			○				目録規則の知識が十分でないため、書誌の新規作成・登録を積極的に行うことができない。目録規則の研修を希望します。
						○	名古屋地区でもっとやってほしい。
						○	九州での開催日数を増やして欲しい。（または定員の増加）
						○	都下の大学等でも開催していただけると参加しやすく有り難いです。
セルフラーニング	A	国	○	○			特に目録業務に関して、職場で十分に育成する余裕がなく、目録業務経験の少ない職員が担当せざるを得ない状況で、NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材は非常に有効な手段だと思います。さらに、専門的な資料を扱う図書館のために、実際に目録作業を行う演習を重視した教材の開発が必要だと思います。また、修了証を発行するようになれば、非常勤職員等の研修へのモチベーションが高まると思います。
			○				参加型の研修以外の方法（例えば目録担当者向けに新規書誌注記記述等の事例情報をニュースレター掲載やレコード調整担当者アドレスへ配信するなど）も、担当者スキルの向上には有効と考えます。
							メールで発信いただいた研修情報は、上司からの転送などで受け取ることができ有効です。つきましてはいっそうの情報提供をお願いします。また開催済み研修の内容をホームページにアップされた際は、その都度情報発信していただけるとうれしいです。Twitterでも発信いただけたらより多くの人が情報を得られます。またもし可能なら、研修中の様子をUstreamで配信いただけると、有休を取るだけで研修を受けることができますのでハードルが低くなって良いです。中継でなく録画配信いただけるとなお助かります。
				○			会場参加型の研修は、いずれ地域では開催が困難になる。SLを充実させ、ILLの様に図書・雑誌についても自学自習が可能な環境を整備して欲しい。
							極力，多くの人が参加できるよう外部公開（Ustream,Youtube等の活用やe-ラーニング化など）を進めていくべき。少人数職場で研修に行けない環境の人ほど受講して欲しいと思う時がある。
						○	会場から遠隔地で勤務する職員や、定員から漏れた希望者に向けて、研修の模様を動画等で公開するなどのサービスを検討して欲しい。
			○				セルフラーニングがもっと広く公開されると、採用、目録講習会までの業務の最低限のレベル確保ができるのではないか。

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
セルフラーニング	A	国		○			NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材により、独学でも業務が用意に理解できるようになった。ILLシステム講習会では、その確認に終始することなく、さらに進んだ実践的内容としていただくことが望ましい。
		私					セルフラーニングより、直接受講の方が直接質問できるので、より効果的だと思うが、一方で3日間東京へ通うのはきついという意見も。しかし参加すれば効果は高い。
	B	国	○				前任者の引き継ぎで済ませて、マニュアルを参照しない傾向があり、研修や自習が必要であるが、研修が長期だと派遣・参加しにくい場合がある。日帰り研修を何度かに分けて行うような工夫もお願いしたい。※設問4(4)の6と4(6)の5のその他に記入した自由記述が、確認頁に反映されていませんので、念のため下記に記述します。<4(4)6>[目録については、オンラインで書誌作成の練習ができるドリル形式の教材が欲しい]
							講習会になかなか参加できないので，セルフラーニング教材を充実させてほしい。HPからセミナーの資料やstreaming配信ができていつでも見えるので，こういったサービスが増えてほしい。
		私					研修会場に出向いて研修会に参加することが人員や経費の面から難しくなっています。オンラインで資料を公開していただく、QAで解決するなど現在の情報提供は大変助かっています。習熟度別または管理者向けの研修資料があると便利かと思います。掲載サイトが分散しているため情報を把握するのが難しいと感じています。
							研修テキストの変更等についても、ニュースレターやNCHP上で連絡を行い、研修履修者へのフィードバックを行っていただきたい。
	C	国	○				和漢書目録のセルフラーニング教材を作成いただけるとありがたい。
		公					操作マニュアルだけでなく、コーディングマニュアル（CM）読解の必要性を感じる。E-learningでCMの解説があればありがたい。
			○				目録作成の講習会後のサポートとして目録作成がある程度スムーズにできるまで、また、難しい目録作成などがセルフラーニングシステムで訓練してもらえると良い。
		私					遠隔研修（E-Learning）システムをさらに開発してほしい。（利用時間帯、ログイン条件の整備が必要に思われます）
	D	国	○				目録システム講習会は毎日テストがあり，真剣に取り組め役に立った。講義を配信するなど，セルフラーニングと組み合わせても面白いと思う。
		私					開催回数を増やしてほしい。または、セルフラーニングの内容がもっと充実し、具体的になれば研修会へ出席しなくてもスキルアップが図れると思う。
							人数が少なく、なかなか参加できない状況ですが、セルフラーニング教材をぜひ利用させていただきたいと思います。
							場所に左右されず、誰でもがいつでも学べるセルフラーニング（ E-learning）環境の充実を希望する。
							もう少し短い時間・日程での研修を増やし、参加しやすくなるといいと思います。セルフラーニングに、WebUIPの操作練習ができるような項目があるといいです。（WebUIPの操作に慣れた状態で研修に参加しないと、ついていけないようです）
	他	共					これまで通り、複数回、非常勤職員も受講可能に設定していただきたい。研修期間中に一通り学習でき、セルフラーニングの受講後システムがあると助かる。研修受講歴が、採用資格となるよう、JANULやPULC等と調整してほしい。
		他					落選理由を知ることができれば、今後の研修参加への対応やセルフラーニングが有効的に活用しやすくなる。
その他	A	国					目録の専任ポストが減って若い世代が育つ土壌が失われ、同時に目録業務の土台とすべき「教養」を備えた世代がどんどん引退していく時期でもあり、危機感を持っている。参加機関で維持できなくなりつつある「カタロガーを育てる」研修を今後期待すべきなのかどうか、まだ判断がつかない。
				○			もっと目録とILLが融合した研修があれば実務に役立つと思います。
							(6)-5)その他の記述が確認画面で表示されないため、ここに転記しておきます。→「実務を通じて習得」

区分	規模	種類	目録	ILL	対象	会場	内容
その他	A	国					利用する前までなんとなく行っていた業務のしくみを、きちんと理解するのに役立ちました。ただ、内容は業務を通して知っていることがほとんどだったため、もう少し詳しい内容があればなおよかったと思いました。
		私					なし
							特にありません
							特になし
							過去はそうだったように，日本大学は規模が大きいので，大学とりまとめではなく参加組織番号単位で研修に参加でえきるようにしてほしい。
	B	国					研修後にも、研修参加者同士で連絡を取り合えるコミュニティを用意してほしい。（懇親会に参加できない場合もあるため）
							予算の関係で受講できないケースが生じないようにNII側でも検討いただきたい。
							受講資格として業務担当またはそれが予定されていることを必要とされるが、図書館員として必要な技術と考えれば必須としなくてもよいのではないか。
		私					特になし
							分館など小規模な館は、選にもれやすく、また、人数も少ないため受講しづらい。
	C	国					なし
							特にありません
		公					非正規職員も研修に参加したい。NIIから、研修費などを出してもらいたい。
		私					札幌で1日研修だと出やすい。
							習会は、とても役立った
							特になし
							・件名付与については、レファレンスのように事例集があればと思う。
							研修を受けた者が異動等でいなくなり、改めて新任の者の受講を申し込むことがよくあるため、なるべく選にもれないよう多くの人数を受講させていただきたい。
							その他のタイトル（VT）について、詳しい説明、例があるとよい
							研修の受講を希望しても抽選にもれることがある
	D	国					事前学習を無くしていただきたい。まとまった時間がとれないことが多いので、負担に感じる。
		私					なし
							研修によっては、期間が短いと参加しやすくなるものがある。
	他	共					実習の時間がもう少しあるとよかった
		短					なし
							同じ講座を複数回受けられるようにして欲しい
							特になし
							私たち短期大学図書館職員にも、平等に学ぶ機会を与えていただき、大変感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。
		高専					特にありません。
							特になし
		私					特になし
		他					研修を何年も前に受講している人たちが多いので、再度の研修も受けられると良い。

5-2-(5)　商用システム導入状況についてその他あれば簡潔に記入してください

規模	種類	内容	計
A	国	MARCレコード提供サービス(360 MARC Updates)、利用統計分析ツール(360 Counter)	4
		中央図書館で管理	1
	公	以上のようなツールを使いこなすためにはメタデータの概念と記述文法についての知識が必要である。そのための講習会開催を検討されたい	1
	私	横断検索システム:EBSCO host Integrate Search	10
		図書館システムによるOPAC、AtoZリストの横断検索	1
		360 Search	1
		なし	1
計			19
B	国	360 Search	2
	私	23年度よりSFXへ移行	1
		日外アソシエーツ「BOOKPLUS」	1
		横断検索システム:EBSCO host Integrate Search	1
計			5
C	国	なし	2
		EZProxy	1
	私	分館のみで購読している電子ジャーナルは、個別にEXCEL表で管理しWebへ一覧表を掲載	1
		なし	1
		聞蔵とCiNiiとメディカルオンライン	1
		メディカルオンライン　医中誌	1
計			7
D	国	A-ZリストはOPACのカテゴリ検索	1
	私	Naxos Music Libruary	1
		SerialsSolutions　360Search	1
計			3
他	短	なし	1
	他	農林水産研究情報総合センターが導入したものを共用	6
計			7
合計			41

5-6　E リソースの管理・提供についてのご意見をお聞かせください。

規模	種類	内容
A	国	契約情報・ライセンス情報・書誌情報の一元管理ができていないのが業務を煩雑にしている。
		契約情報、利用規約の情報を学内担当者間で共有したいが、既存の方法では限界がある。ERMSを導入しても、それへの移行作業や管理に手間がかかりそうで、今のところ様子見の状況である。提供方法としては、ディスカバリーサービスを導入するのが望ましいが、予算不足で難しい。
		アーカイバルアクセス権の有無等出版社によって条件が異なるため管理がしづらい。
		冊子体の所蔵と同時にOPACで検索できるのが利用しやすい形態と思うが、今のところ別リストで管理している。
		的確な所蔵情報が欲しい。
		他機関のEリソースがILLで利用できるかどうかについて、外部からは分かりにくく、必要になる度に相手館に問い合わせをしなければならない。統一したフォーマットで情報公開できる仕組みがほしい。
		【書誌の管理】NACSIS-CATの現在の仕組み上、プリント版と電子版は別書誌となるが、両者の間には何のリンク関係もない。変遷リンクや変遷ファミリーIDのように、相互を行き来できる仕組みがないと、ILLを含め、効率的に利用できない。【ライセンスの管理】Eリソースのライセンスは、コンソーシアムなどにより、多少の条件の違いはあるが、基本的な部分は共通することが多い。そのため、テンプレートのようにライセンス情報を共有する仕組みを作成することはできないか。
		NACSIS-CATで図書と共に一元管理できるのがベスト。課題は多いかもしれないが使い易いシステムの構築を期待する。今回のアンケートのように各大学の状況を知るのは良いと考えるが，もっと踏み込んで各大学に様々な協力を依頼要請しても良いと思う。
		各パッケージ、バックファイル等の内訳タイトル変遷の管理・提供サービスがあるとよい。
		契約と利用条件等、管理の一元化が難しい。
		現在のNACSIS-CATの書誌・所蔵レコードの構造では、Eリソースで必要な情報を管理することが難しい。したがって、個々の大学でEリソース情報を管理・提供するしかなく、コンソーシアム契約の利用条件など、各大学共通の情報であっても、それぞれで内容を確認して管理するなど非効率な部分がある。また、冊子体のように各大学の所蔵情報が共有できていないため、ILLなどで他大学のEリソース所蔵を調べようとすると、一大学ずつ確認していかなくてはならずたいへん手間がかかる。
		現在のNACSIS-CATの書誌・所蔵ﾚｺｰﾄﾞの構造では、Eﾘｿｰｽで必要な情報を管理することが難しい。したがって、個々の大学でEﾘｿｰｽ情報を管理・提供するしかなく、ｺﾝｿｰｼｱﾑ契約の利用条件など、各大学共通の情報であっても、それぞれで内容を確認して管理するなど非効率な部分がある。また、冊子体のように各大学の所蔵情報が共有できていないため、ILLなどで他大学のEﾘｿｰｽ所蔵を調べようとすると、一大学ずつ確認していかなくてはならずたいへん手間がかかる。
		【管理】契約内容・条件等が担当者以外に判りにくい。出版社や代理店からの情報（ﾒﾝﾃﾅﾝｽ、ﾀｲﾄﾙ変更etc）の学内周知が二度手間すぎる。【提供】OPAC等からｽﾑｰｽﾞにﾘﾝｷﾝｸﾞしていくﾌﾛｰも必要かもしれない。CATのように全国共同で電子ﾘｿｰｽを整備していく枠組みが欲しい。電子媒体と紙媒体を横断的に探せる総合的な検索ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑの必要性を感じる。
	公	E-Bookのアクセス先が章単位であったり、アクセス先が全体に流動的であったりする中では電子媒体のメタデータ化の先行きは全く不透明である。そのような状況下では、プリント版購入費の割合が高い場合にはERMSの類の位置づけは「従」とならざるを得ないのではないか

規模	種類	内容
A	私	ERMSのようなシステムがNACSISにあると便利だと思います。特に各電子ジャーナルの利用条件などはコンソーシアムを通せばどの大学も同じなのでCATのようにデータベースの共有が可能かと思います。
		契約体系が複雑であり，契約情報管理が難しい。
B	国	電子情報を効率的に管理し、利用者に効果的に提供するためには、そのためのシステムの導入が必要だが、電子ジャーナル等一次情報の購入経費の予算措置が限界に達しており、管理・提供システムの導入経費に予算を割くことが難しい。担当者の確保の問題とあわせて、具体的な展望を描きにくく苦慮している。
		ERMSは高額のためなかなか手が出ない。ライセンス情報(ILL可否含む)を含む全国的に共有可能なDBの構築が望ましい。
		Serials Solutions社の360core,360rink等とOPACなどを統合した検索システムができれば、より一層のサービス向上につながると思われる
	公	利用可能年、利用条件が出版社によって把握しづらく、また利用可能年が知らずに変わっている場合もあり、厳密な管理が難しい。誌名変遷後は新タイトルのみの表示になる場合も多く、過去タイトルの提供が難しい。
	私	提供の可否(可能)が明確でないものが多く苦慮する事
		次世代OPACが早く一般化されて欲しい
		電子情報資源の提供方法については常々苦慮している。特に電子ブックの提供方法と電子ジャーナルのパッケージ移動への対応
		すべての図書館システムに対応した書誌データが提供されると、OPACから電子媒体の利用が可能となり、利用促進につながると思われる。
		アンケート冒頭の概況欄に記載すべきでしたが、電子情報資源の管理・提供方法については、タイトル数を含め、龍谷大学深草図書館(FA007750)が集中管理しております。
		学協会誌など出版社を移るものなどの管理に苦心している
		Eリソースが年々増加しているので、管理を主担業務とする人員配置の重要性が増してきている。
		ILL依頼時に非常に助かっています。
		NACSIS-CATの電子ジャーナル版ができるとしたら、いつ頃になるでしょうか?
		提供については2011年度からはOPACに登録を開始して、そこからの利用を推進する。管理については、資産登録の是非が課題となっている。(特に電子ブックの扱い)
		OPACからの提供は、可能となっているが片手間でメンテナンスを行える数を超えている。メンテナンスにかかる経費をどう節減するかが課題です。契約情報・ラインセンスの管理も課題と認識しているのでERMSの導入も検討したいが予算との兼ね合いもあり、難しい。
		Eリソースに対応するコーディングマニュアルの整備を早急に行ってください。
		年々増加傾向にあり、管理が厳しくなっている。
C	国	メンテナンスに手数がかかるので、大変である。

規模	種類	内容
C	国	増加する一方のEリソースを正確に管理するのは難しい。また個人的にはリンクリゾルバを導入すれば全て解決される問題とは思っていない。
		リンクリゾルバがあるとよいが、費用がかかるので導入できない。
		現状ではILL依頼を冊子体所蔵館優先で探しているが、e-onlyが増えることが予想されるため、eリソースの所在を調べる手段の整備が早急に必要である。
		電子ジャーナルについては契約が年単位であること、出版社間の移動があることからOPACによる管理が難しい。また、リゾルバシステムのメンテナンスもシステムに精通するのは難しく、代理店を介するのは手間がかかり、いずれも手間がかかり更新が滞ることがある。ERMSにつちては、導入する経費がない。
	公	図書館システム、SFX、Verdeなどそれぞれに一長一短があり、管理が難しいのが現状。
		A-Zリストを利用しているが、それでも管理が大変だと感じている。現物はOPAC、EリソースはA-Zリストなど、利用の際の窓口が複数に分かれているのは不便だと思う。
	私	表計算ソフトにより管理し、商用システムにより提供しているが、管理・提供とも一体化したシステムが普及すると良い。
		まだ契約数が多くないので、リンクリゾルバは使用しておりません。
		出版社ごとに契約内容等異なるので、導入時の作業が煩雑である。電子ジャーナルのカレント部分をOPACに反映させる等のメンテナンスも手間がかかっている。
		著作権のクリアが遡及を阻んでいる。学会誌や紀要などは無料にするべきである。
		EJは利用条件や利用可能範囲などの確認がとても大変である。利用には、OPACなどに一元化して提供できればよいのだが、それには自館でデータを入力しなければならず難しい。A－ZリストのデータをOPACに反映できればよいのだが。
		Eリソースの管理・提供システムを検討したい。
		コンソーシアムごとに毎年一括でupdateできるようにしてほしい。所蔵年、巻号等は省略して（簡易なデータで）登録できるとよい。
		出版元の事情により、タイトルによっては電子ジャーナルの安定的供給がされにくいものがある。
		複数データベースの一括検索が容易になれば利便性が高まると思います。また、提供媒体が電子のみの場合、永続的アクセスの保障が望ましいと考えますが、NIIでその機能を担っていただくことは可能でしょうか。
		A-2リストはOPACで対応できる。今後はリゾルバツールの提供を主にしなければならない。管理は一括できるERMSが望ましいが、本学規模だと表計管理でまかなえる。今後はERMSの向上に合わせて検討したい。EJという図書館知識と学内のネットワークに関わるコンピューター系知識などが必要となってくる。関連部署との連携が必須。管理提供に関する研修会、勉強会等に参加してみたい。
		電子ジャーナルの契約年によって、過去に遡って閲覧できる期間が変わってくるので管理が煩雑となるため、OPACに載せきれていないのが現状である。
		電子ジャーナル及びデータベースについては、高額な契約を締結し利用しているが、図書館財産として登録できていない。また、雑誌担当者が必ずしもシステムに精通するものとは限らないため、内容的には雑誌であっても、これらの一環として登録業務などがシステム担当が行うなど、業務分掌が分散している。これを雑誌として管理することができれば、電子も含めて一元管理ができるようになると思う。

規模	種類	内容
C	私	著作権の関係があいまい。データで送ってもらえるか否か、ペーパーでの送付ならば可なのか、など。
		・冊子体のような目録基準がないので、書誌管理が担当者によって異なってしまう。・ガイダンス・セミナー等で詳細なデータが検知できるように実際に入口から利用方法を説明。
		リンクリゾルバのターゲットの購読雑誌管理が大変である
D	国	書誌データの配布があればOPACに登録しやすくなる。電子ジャーナルはパッケージ契約なので、NACSIS-CATに登録する際には大量の所蔵データを一括登録および削除する仕組みが必要。
		書誌・所蔵情報を一元的に提供して欲しい。（現在はOPAC等で個別に検索）また、NACSIS-ILLから上記システムを利用して依頼データを作成できればベスト。
		利用条件、ライセンス情報の管理が課題。図書館システムでの拡張に期待したい。
		電子と冊子がシームレスに管理できる図書館システムがあるとよいが、まだ現場が求めるシステムがない。関係機関から情報取得が可能な複数システム連携型が必要である。
		ILLについて著作権の判断が難しい時がある
		電子ブックのmarcレコードをOPACへ取り込む作業が煩雑
		タイトル毎ではなく、パッケージごとに各大学が契約しているかどうかILLに対応しているかどうかが把握できるものが提供されると良い
		NIIがナレッジベースの機能を果たし、参加館が自館の契約情報（可読年やILL可／不可等の情報）を簡単に登録できるとよいと思う。
		Eリソースの管理ソフトは毎年高額な費用がかかるため，表計算ソフト等で管理しているが手数がかかる。
	公	ERMSは導入しておらず、管理・提供ともに手作業による試行錯誤で行っています。中・小規模大学にとってERMSなどは手が届かない商品なので、Eリソースを扱うための基本的な知識も提供していただけると有り難いです。また、Eリソースを管理するために、他機関ではどのような情報をどう扱っているのか、情報交換できると助かります。
		当館において、書架の狭隘化やサービスの向上に関する重要なソリューションの1つとして、電子リソースの効果的な導入が挙げられる。予算や人的コスト面を現実的に検討するためにも、実際に活用されている図書館の取り組みや、Eリソース自体の技術動向などに今後も注目していく必要があると考えている。
		無料のリソースを一元的に管理できるシステムを無料で提供してほしい。
		提供数が多すぎて管理が難しい。
	私	ILL業務において、Web用のISSNで検索しても所蔵館がヒットしないため冊子体用のデータで依頼している状態である。どこが所蔵しているかしっかりしたデータが欲しい。
		Eリソースは、契約上の問題をクリアできるなら相互利用できるよう、より一層情報公開を望む。
		今後、増えていくと思われるので管理や提供について他館の状況を詳しく知ることができると参考になる。

5-7-(3)　OCLC NetLibrary の事前書誌登録についてのご意見をお聞かせください。

	規模	種類	内容
肯定意見	A	国	目録をとる必要が出てきたら利用したい
			電子ブックの書誌作成が課題となっているため、大変ありがたかった。学内ネットワークのみの利用のため、書誌をダウンロードした。
			今後も購入する可能性があるので、追加していただけると助かります。
		私	電子ﾘｿｰｽについては360COREのみの管理となっている
			本格実現できるようになってほしい。
	B	国	本学での利用実績はないが、有用なサービスだと思う。
		公	書誌が登録されれば、所蔵登録だけでも行う館があると思うのでよい試みだと思う。
		私	電子ブックをOPAC登録する予定のため、事前登録書誌を利用する考えである。
			書誌は代理店経由で入手が可能なので、そちらを利用している。所蔵登録についてはILLで提供できない制約があるとやはり所蔵登録の意義が半減するように思います。（長期的な視点でみれば、意義はあると思っています
			②では「利用しなかった」としたが、数ヶ月以内に利用する予定である。事前書誌登録は助かります。
	C	国	あるに越したことはありません。
			今後電子ブックの利用は爆発的に増加していくと思うので、意義のあることだと思う。
			MARCの提供を依頼するよりも、NACSIS-CATに登録できた方が業務の簡略化になり良い。
		公	契約タイミングがあえば、利用したい。
		私	とても便利でした。
			整備された書誌データが利用でき、大変便利です。
			有効である。
			良い企画だと思います。
			有効であると考えるが、本学ではまだ電子ブック取扱いはない。
			電子情報源に対する知識が乏しいので、研修等を望む。
			当館では、電子版と冊子体が存在する場合には、電子版を優先的に購入しています。これまでは冊子体の書誌を流用して細かく電子版仕様に修正する必要がありましたが事前に電子版の書誌を得られるというのは助かります。
	D	国	あれば便利だと思います。他の電子ブックもお願いしたいです。（Springer等）
	他	私	今後継続して、実施していただけるとありがたい。
追加要望意見	A	国	利用するかどうか未定だが、もし利用することになれば、洋書についても事前登録書誌があると助
			電子ブックの書誌に所蔵登録するのに、件数が少ないならば通常の図書の所蔵登録の手順は有効だと思われるが、多い場合は一括登録する仕組みがあればよいと思う。
			貸出不能かつ複写困難（1時間に最大15頁まで）でILLに対応できないため、NACSIS-CATへの所蔵登録に馴染まない。継続的に提供されるのであれば、ダウンロードしてローカル書誌を作成するのには役立つ。
			今後タイトルが増えることが予想されるので、アップデートにタイトルが追加されれば便利。書店にはCATPデータを購入時に提供いただき、ローカルシステムに一括登録されるのが主流なので、二重手間のようにも思う。書店→NII→CATPでダウンロードできるしくみがあると便利なような気がする。（現在の書店提供データは必ずしも電子ブックのコーディングマニュアルに乗っ取っているとは言えない。
	B	国	NACCIS-ILLについて・参加組織ファイルに複写料金（単価）を格納するフィールドがあるとよい。・CiNii収録のPDFや電子ジャーナルとの全文ファイルと連携が図れるとありがたい。
	C	国	システムのバクアップができる設備を西日本につくるのは難しいでしょうか。

	規模	種類	内容
追加要望意見		私	NACSIS以外の書誌データとの連動が可能になれば良い。
			電子版と冊子体があるときは電子版を購入するのであると便利である
	D	公	OCLC　NetLibrary　以外の電子ブックも登録の対象にしていただいきた。
			電子書籍について，運用のルールが必要だと思います。
		私	Nacsisの正規書誌と参照ファイルの見分けが一目でわかるようにしてほしい。現状ではコードで判断するためわかりづらい。。
			洋書の作成は難しいので是非行って欲しい
	他	他	図書・雑誌の情報もOCLCへ提供すべきである。
否定意見	A	国	EB/EJは、ERMSで管理、冊子についてはNACSISという棲み分けの方向。利用する予定は今のところない。
			WebCATはなくさないでください。Plusは使いにくいので
			省力化目的で，目録作成スキルの低下を招くことには賛成しかねます
		公	そもそも実際にアナウンスされたのですか?しかし、先ほども述べたようにEリソースのアクセス先が流動的である限り、これまでのように「書誌」の形でメタデータを定着させることには無理があると思われるので、仮に知っていたとしても利用していたかどうかは疑問
		私	電子ブックについてはOPACに登録したいと考えていますので、NACSISで書誌登録をしていただけると大変助かります。
	C	私	ありがたいことです。
	他	高専	面白い試行ではありますが、現在のところ当館では使用する機会がありません。
不備の指摘	A	国	試行について、広報が足りなかったのではないだろうか。NACSIS-CAT/ILLニュースレターには掲載されていたようだが、Eリソースの管理を担当する部署では気付きにくいと思う。
	B	国	広報を知らなかった。
		私	この件については紀伊國屋担当者からの情報提供もなかった。
	C	国	OPACへの電子ブックの一括登録機能がCATP対応でないため、利用できない。
		公	重複書誌がまだまだ存在する。
		私	ILLは互恵関係であるべきなのに、それにはそぐわない運用をしている大学があるのは残念である。（例えば他大学の紀要について、受けるのは謝絶するのに、自らは依頼するなど。）
	D	私	あまり広報がなされていなかった印象を受ける。NACSIS-CAT/ILL参加館に通達文書・メールなどで、もっと広報してもよかったのではないか？
代替活用意見	A	国	購入先からもらったMARCを一括登録した方が便利なため利用しなかった。
		私	MARC21を使用しているため、本学としては書誌流用の必要性を感じていない。
	D	国	購入タイトル数が多い場合は、marcレコードを一括登録するほうが簡便

6. 自由記述（日頃、NACSIS-CAT/ILL 業務の課題と考えていること、NII への要望など、ご意見があればご記入ください。）

区分	規模	種類	回答
NACSIS-CAT	A	国	【CAT】レコードの品質低下。目録業務担当者の質の低下。それに伴う調整業務の増大。問い合わせに対するNIIの回答の遅延および判断のゆれ。CMの、特に記述に関わる重要部分の刊行が休止されている状態。レコード登録に関しては、書誌新規作成及び修正可能なID、所蔵登録のみ可能なIDを切り分けて欲しい。正規職員及び目録業務担当者の減少により後継者の育成がままならず、現在の形での研修自体存続は困難。新たな研修体系を検討して欲しい。【ILL】雑誌の所蔵が更新されていない館があるため、依頼時に各館のOPACでの確認作業が必要となっている。
			webcatについて、NCIDでも検索できるようにしてほしい。
			WebCATはなくさないでください。Plusは使いにくいので
			電子的資料の取り扱いについて『次世代目録所在情報サービスの在り方について』で提案されているような各機関の契約情報をハーベストするような仕組みが構築されることを期待している。
			当アンケートの2-2③で，RDAについて質問しているが，RDAは現場では使えない，現行の洋書目録はAACR2002Rの2005updateだからこれを設問にしないのは，おかしい。また，「目録システム利用マニュアル」で，未だにAACR1988Rと記されているが，早々に修正してもらいたい。
			書誌の新規作成や書誌調整は、他の業務に比べて比較にならないほど時間がかかります。そのため他館が書誌作成するのを待った方が効率が良いと言えます。当館は中核を担うべき大学との自負が職場内にあるため、書誌の管理に意欲的です。しかし、忙しい職場や、書誌管理を重視していない職場において、書誌管理に時間を割くのは難しいと思います。
			NACSIS-CATは既に量的には充分なデータが揃っているので書誌調整の簡素化など，質を高める点にも注力していただきたい。またAPIの公開などの図書館界の外部への提供の働きにも期待している。
			最近の新規書誌やレコード調整の対応などを見ると、どの図書館でも、これまでのような高度な目録知識を維持することが困難になってきているように思われる。今までのレベルを維持することにこだわるよりも、知識・経験が浅くても対応できるように、もしも可能であれば、流用書誌の変換システムや、規則自体の単純化などが実現できれば良いのにと思う。
			照会で依頼館に返すべきところ（Webで公開している場合など）謝絶して他館がコピーを提供されることが何度かあった。こちらも調査不充分だが謝絶と照会の使いわけをわかってほしい。
			毎年「雑誌継続所蔵・未更新所蔵リスト」を送っていただいているが、データの抽出時期がかなり前のようで、数ヶ月前に更新済みのデータが未更新として掲載されていることが多い。難しいとはおもうが、できるだけ送付直前にリストを作成してほしい。
		私	不備のある不完全書誌が特に逐刊で多い（必須フィールドのもれ）
			CAT図書担当：CMのうち未決定部分の決定、和漢古書CMの拡充と見直し(例えば、「伝統的」というだけのあいまいな理由で、カタロガーがそのテキストの成立時の巻数やそういったものの有無まで調べなければならず、しかもその現物の書誌を記するには直接役に立たない「書誌的巻数」等)、SHやUTLといったリンクブロックの正しい運用のための啓蒙を要望したい。ILL担当： ①稼働時間を土曜日も20時や平日も24時間稼働にして頂けると助かる。（稼働時間の延長） ②日祝日の稼働をしてほしい。（稼働日の拡大）

区分	規模	種類	回答
NACSIS-CAT	B	国	次世代の目録規則や目録システムへの移行が検討されているが、現場の担当者がそれらに対応するための準備として、啓蒙・教育のための講演や研修を実施していただけるとありがたい。ILL業務の設問3−3②に関して、料金相殺結果通知書について、年度末(3月)は10日頃までに到着して欲しい。（他の月については現行のままでよい。）
			サービス停止が予定されている「Webcat」について、他の検索サービスよりも使い勝手が良く、利用度が高いので、サービスを継続して欲しい
		公	・Q＆Aを利用させていただいております。件名の付与にばらつきがあり、探し出すのに時間がかかり、その結果、0件ということもあります。何かよい方法がありませんか。・新規登録雑誌の変遷情報を、書誌作成時にダウンロードできず、2度手間になる。何とかならないのだろうか。・最近目録の質が落ちてきていて、以前の書誌(自館で保存している書誌)と異なることがある。・書誌に記載されている件名やCLSをNII推薦だと思っていたり、他の図書館職員が付与していると考えていない職員がおり、困っている。
		私	Webcatplusの旧バージョンを復活してほしい。
			書誌および所蔵情報の管理において、NACSIS-CATとローカルの二重管理以外に何かもっと簡潔な方法はないかと思います。
	C	国	CAT関係のQ&Aを和書・洋書別に検索できるようにしてほしい。
			雑誌書誌データの品質が下がっている感じがする。発見館で、今より簡便に修正が行えると向上するのではないか考える。
			Q&Aのタイトルが質問者が尋ねた通りの内容でしかわからない。書誌IDやタイトルではなく、内容を示す「言葉」によるタイトル付けを義務化することをご検討いただきたい。
			いつもお世話になっております。レコード調整件数（2-3-8）については、正確な数を把握していないため、記入しておりません。（記入欄がなかったため、ここに記載しました）今後とも、よろしくお願いいたします。
		公	重複書誌がまだまだ存在する
			目録研修も受講しましたが、目録規則が難しく他の業務を兼務しながらの目録業務はなかなか難しいと思います。しかし、細かな目録規則の積み重ねで、ILL等の業務が滞りなく実施できているので、今後も継続していくことが必要だと思います。
		私	レコード調整受付時に、作成館ではないのに質問されるケースには困惑します。
			書誌の新規作成に資格制の導入を検討して頂きたいです。
			本学においても、図書館職員数全体の縮小と、入れ替わりの頻繁な派遣職員割合の増加により、書誌の新規登録作業を日常的な専門業務としてこなすことが困難になっており、他館作成の書誌に頼らざるを得ない状況が生じております。また、書誌精度の低下について近年問題が大きくなっているとも聞き及んでおります。このような問題を解決するためにも、書誌作成館を、権限のある大規模館に限定していただけると、中小規模の図書館にとっては非常にありがたいことと存じます。また、書誌作成に必要な予算・人員の問題を解消するために、現在NDLで作成されておりますJAPAN　MARCと学情書誌の一本化も視野に入れるべきかと存じます。
			WebcatPlusの使用者対象の設定が不明である。検索結果の「この本を所蔵する大学図書館」をスクロールしなければ中身が見えず、コピーをとる際にも一部しかコピーできない。

区分	規模	種類	回答
NACSIS-CAT	C	私	①大学生が情報収集のためWebcatPlusを使う際、どのような利用が大学生としてふさわしいか示して欲しい。②ILL相殺サービスでファイルをダウンロードすると他館の利用者情報も含まれる。個人情報もあり、早急に対応をしたほうが良いと思われる。
			・国会図書館のコーディング統合、調整など、進捗があれば知りたい。・所蔵登録館以外でも書誌重複報告ができるとよい。
			・目録新規作成について、コーディングマニュアル等に、細かい事例まで明確に表現していただけると作業効率が上がると思います。・学術コンテンツ登録システム（CiNii公開に使用）の講習会を実施してほしいと思います。概要や登録手順を、Web上ではなく講習会形式で学べる機会が欲しいです。
			目録に関して言えばTRが複雑なものについて、検索ミスから発生する重複が増加しているように思いまので、すこしでも解消していただきたいと思います。書誌調整が行われにくい現状がありますが、知識や時間不足といったものを解消する必要があると思います。ある程度目録に慣れた方用に、セルフラーニング等を作成してみてはいかがでしょうか。
	D	国	電子情報と図書（冊子体）情報を統合した新しい目録モデルを示してほしいと思います。利用の面から考えると、本文コンテンツへのナビゲート機能は不可欠ではないでしょうか。
			書誌調整は小規模図書館にとって時間的に大きな負担になるばかりか、相手館や国情研とのやりとりの中で、精神的にも消耗してしまう状況になっています。もし、参加機関の拡大をめざすのであれば、小規模館が参加しやすい「やさしいシステム」を構築されることを望みます。
			NACSIS-CAT/ILLの存在には感謝。現在の図書館業務はNACSISなしには成り立たない。目録の品質管理には協力したいが、作成館の負担があまりにも大きいので書誌調整の方策検討を望む。計画停電による休止は図書館業務に大きく影響した。想定外と理解するが改善を望む。
			・他MARCを取り入れてほしい。現在のNC書誌には情報として足りない項目もあり不十分。新規書誌作成も業務効率の観点から必要ないしくみを作ってほしい。・電子ジャーナルを管理するには効率が悪いシステムである。改良をしてほしい。
			NACSIS-CATについては，特に本学のように単科で担当人員が限られる場合，レコード調整で多くの時間が割かれる事態を避けたいために，登録率が落ちてしまう。また，図書館の職員の人事については一般職が増え，目録の品質管理の面で不安が大きいのが現状である。
		公	・目録講習会に参加しないでの新規書誌作成・修正には限界がある。知識・技術を目録担当者が共有できるように、講習会の拡充を望む。・「Q＆A」の質問・回答をもっと充実させてほしい。基本的な質問でも参考になる場合があるので、乗せてほしい。・コーディング・マニュアルを充実さあせてほしい。あまり詳しく書かれていないため、解釈の違いが生まれ、書誌作成に支障をきたす。・参加組織レコードの更新頻度を増やしてほしい。（病院図書室などは、NACSIS-CAT/ILLに参加していない場合があり、各種お知らせをwebcatの参加組織に掲載して周知するようにしているので、週1回の更新ではタイミングよく行えない。）

区分	規模	種類	回答
NACSIS-CAT	D	私	当館は音楽資料が大多数を占めるため、統一タイトルの典拠ファイルを独自に管理しております。専門分野でのユーザー同士の交流、相談先があれば、典拠をアップロードする「勇気」を持てますが、典拠については各館で温度差がありますし、各ユーザーが孤立している現状では、当たらず触らずといったスタンスを取らざるを得ません。かなりの負担とは思いますが、エンハンス・ライブラリーなどの中心的な参加館を置いていただくか、NIIの中に専門チームを置いていただくなど、現在のフラットな組織にもう少しメリハリをつけることはできないでしょう。
			レンディングポリシーに掲げている内容にそぐわない（当館の事情に依らない）依頼の「謝絶」については、カウントされない仕組み（システム）にしてほしいです。
			MARCとの互換性、流用入力時点でNC様式に自動で返還可能なｼｽﾃﾑ上の改変が進むことを期待しています。
	他	短	・人員削減や短期間での職員異動等のため複雑な処理の引継は困難である。目録画面の簡素化など図書，雑誌等の目録作成の見直しを検討してほしい。・目録作成時，著者記号が著者表示と異なることがある。著者の認めるローマ字表示で統一してもいいのではないか。
		高専	非常に細かい書誌修正をされている参加組織もあれば，MARCデータのまま書誌登録されている書誌も見受けられます。現在では組織として書誌（の作成）をチェックをしている図書館は少ないのではないでしょうか。個人の能力に左右されており，このことを改善するのは人員減などからも非常に難しいと思われます。共同分担入力方式は素晴らしい理念ですが，書誌レベルの水準を保つために，書誌レコードの事前登録事業の継続，あるいはMARCからの流用時に特に間違えやすいフィールドは自動的に変換されるなど，システムの進化も望みます。
			特に目録業務でスキルの無い人間が無茶な書誌を作っているのを良く見かけるようになった。そもそもNIIの行っている目録のシステム講習会は目録そのものを教える講習会ではなく、長年の積み重ねがある図書館しか新人に目録のスキルを見に付けさせることができない。
		他	・大学図書館が主なので、公共図書館とは蔵書構成の違いがあり、当館で必要とする資料の書誌が存在しないことが比較的多い。できれば一般書、軽い雑誌などもデータが増え、参照できるようになると助かります。・WEBの「Q&A　DB検索」は便利でいつも参考にさせて頂いています。
NACSIS-ILL	A	国	(ILL業務)　多巻ものの現物貸借依頼の場合、巻冊次の入力フィールドが定まっていない。「BIBNT」や所蔵館の「VOL」フィールドに入力して依頼する館が多い。マニュアル、研修等で徹底を望む。
			BLDSCとNACSIS-ILLの連携を引き続き望む。雑誌の初号主義が電子ジャーナル書誌記述に馴染まないことから、冊子/電子の包括的書誌コントロールは依然困難と考えます。何らかの形で、eリソースを含む学術情報の管理及び提供支援のための情報提供，環境構築を希望しております。
			・ILL相殺システムにより多くの機関が加入されるよう、NIIからの働きかけをお願いします。・電子ジャーナルの複写依頼をする場合、NACSISのDBにヒットしなければ、個々の大学図書館等のHPを検索しなければならないので，EJの所蔵リンク情報があれば便利と思う。・電子リソースへの対応が遅れている。
		私	ILLについて、1セメスター15週の授業時間を確保するに祝日が授業日になる日が年間何日かあり、一定利用者が存在するため、可能であれば祝日もオーダー出来るように調整いただければありがたい。

区分	規模	種類	回答
NACSIS-ILL	B	国	NACCIS-ILLについて・参加組織ファイルに複写料金（単価）を格納するファイルドがあるとよい。・CiNii収録のPDFや電子ジャーナルとの全文ファイルと連携が図れるとありがたい。
		公	＜ILL＞本学では海外機関への支払方法が整備されていない。海外機関への支払について、相殺制度を利用できれば大変助かる。
		私	ILL依頼の際、発行機関が優先的に上位になるようにしてはどうかと思う。
			NACSIS-CAT/ILLQ&Aデータベースを利用してNII様へ質問させていただくことがありますが、その回答に時間を要する場合があります。NII様のご都合もあると思われますが、そのような時はその旨ご連絡をいただけるとありがたく思います。参加組織メンテナンスで次の項目が明確になるとありがたいです。　①複写料金　②複写料金と送料以外にかかる料金（基本料など）　③速達対応の可否（現在は、送付方法がメール便とわかれば速達不可と判断しています。）　④カラー複写時の対応（受付館の判断でカラー複写するなど明記してあるとよい。）　⑤E-Journal複写時の対応（1ページ1枚複写か、2ページで1枚複写なのか）　メンテナンスに含まれていても、しっかり確認しないと、わかりにくい場合もあるので依頼時に必要な情報がまとまっているとわかり易いです。　Webcatで表示される雑誌書誌について、件名も表示してください。　Webcat検索画面で、件名検索を可能にしてください。　電子情報資源に対応するコーディングマニュアルを早急に作成してください。コーディングマニュアルによく見られる“NACSIS独自規定”をやめてください。
	C	私	ILL料金相殺システム:現在3か月に1回の請求で引き落しが2か月後。第4半期分の支払いが年度を超えてしまうため、経理の処理が未払いとなる。決算時期のため4月の第2週末頃までに通知がいただけると処理が可能となる。
			ILLは互恵関係であるべきなのに、それにはそぐわない運用をしている大学があるのは残念である。（例えば他大学の紀要について、受けるのは謝絶するのに、自らは依頼するなど。）
			複写料金が統一されるのを望みます。依頼後に研究室所蔵の資料のため利用できないと謝絶されることが多いので、利用できない資料を区別するかヒットしないかなどできないでしょうか。一般謝絶の理由は明らかに所蔵がないものに依頼されるものがあるので、認識を促してほしいです。
	D	国	NACSIS-ILLシステムに関する要望①FAX送付サービス種別におけるフラグの記述に揺れがある。　例）ステータスNでも、DDS送信可の機関がある。　許諾されているものは可と記述されている機関で、Aの場合とNの場合がある。②カラー複写可否、およびDDS送信可否の検索項目を新設してほしい。（至急で入手したい場合でも、受付機関からのカラー複写照会により、発送が半日から1日遅くなることが時々あるため。DDS送信サービスを提供している機関はまだ多くないため、都度各機関のポリシーを閲覧しなければならないため。）③複写や貸借の依頼機関においては、相互協力の観点から、受付ステータスを「常時否」とはできない設定としてほしい。④電子ジャーナル資料（EJ）の書誌に所蔵登録する機関が非常に少ないため、各機関OPACやホームページで所蔵調査をし、「受付館の追加」操作をして依頼をするケースが頻繁にある。年度毎、出版社ごとの一括登録・削除が可能な仕組みがあれば、登録も短時間になり、利用する側の調査時間も軽減されると思う。⑤GIFで依頼をし、「相手館のデータでは発送になっていても現物未着」の場合、やりとりを別途メールで行っているが、回答がないことがあり、業務に支障をきたしている。ある時には何度かのメール交換を経て、入手まで2ヶ月かかってしまった。オンラインシステムを利用してクレームすることができるようにシステム改善をしてほしい。

区分	規模	種類	回答
NACSIS-ILL	D	国	・ILLについて，より多くの館が料金相殺サービスに参加していただけると会計処理がスムーズになると思います。・目録について，充実したDBにするためすべての参加館が書誌作成を行えるように，より一層の研修の充実，各館への働きかけを望みます。
	他	他	・NDLとの連携を望みます。・ILL業務において、送付や支払いに関するポリシー記入が不十分な館が多すぎます。かなりの頻度で個別の問い合わせが必要となり、大変な手間です。また、支払い方法が当館では切手のみと限られているので、相殺以外にも他の支払い方法を規定するパラメータもあると便利だといつも思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
Eリソース	A	私	EJ/EBookの今後の取り扱い機関リポジトリの情報共有
	B	公	EJ,EBookの書誌登録の基準がまだ曖昧で、作成時不明な場合が多い。電子化が進んでいる館も増えているので、難しいとは思うがもっと明確にしてほしい。
		私	5.電子情報資源 について2011年1月よりiPad貸出による無料のの電子ブックを提供
	C	私	電子ジャーナル書誌・所蔵の搭載、加えてILLの可否表示、をお願いいたします。
	D	公	電子書籍について，運用のルールが必要だと思います。
		私	Eリソースは各大学が額の多少はあるが国の補助金を受けて整備している。つまりもっと共有できるようなシステム、環境であるべきだと思う。
教育ニーズ	A	国	小規模分館・分室の担当職員への支援，たとえばセルフラーニングシステムの充実を要望したい。
		公	NIIによるデータベース運用が多種多様になってきた。それぞれの仕組みや機能の違いがわかりにくくなってきている。そのあたりの説明会のようなものの開催をご検討いただきたい
		私	ILL業務の引継ぎが出来ていない館が目立ちます。貴機関のILl研修会に参加するよう呼びかけていただきたい。 過去はそうだったように，当学は規模が大きいので，大学とりまとめではなく参加組織番号単位で研修に参加でえきるようにしてほしい。 司書資格を持たないスタッフがほとんどなので、目録スキルの継承を今後どうするかが問題である。
	B	私	目録担当者の非正規化が進むにつれて、技術継承や非正規の目録担当者のモチベーションの維持が困難になってくるように思います。これからの目録業務を支える人材の確保、ステータスの向上など課題は山積みだと思います。NIIには学術情報流通基盤としての目録（メタデータ）を支える政策の必要性を国に対して訴えていってほしいと思います。よろしくお願いいたします。
	C	国	どの業務についても基本的な操作方法について各参加機関が把握しておくことが重要。また、CAT業務については書誌の新規作成や書誌調整など、高度な業務を的確に遂行できる人材育成、確保が急務。ただし、書誌調整については、もっと簡便に完結できる仕組みがあればありがたい。
		公	いつもお世話になっております。NACSIS-CAT操作だけではなく、目録そのものの研修実施を希望します。通常の目録、ILL業務は全て委託業務となっております。（3名常駐）現代GP事業については別契約でした。

区分	規模	種類	回答
教育ニーズ	C	公	研修を受けたくても勤務形態による制限や、離島県という地理的な制限によりかなわないという実情があるので、数年に一度という頻度でかまわないので、ここ沖縄での研修を実施して頂けたらと考えます。
		私	NII等の研修に参加できず職員の意識向上の機会が少なくなっていることが残念です。ホームページを通じて情報収集に心がけていきたいと思いました。
			現在の職員体制では、NACSIS-ILLへの参加に踏み切れないのが実状です。今後、NACSIS-ILLでないと相互利用を断られるケースが、国立大学を中心にますます増えることも予想され、利用者サービスに与える影響を心配しております。
	D	国	CAT:ILLとも非常勤職員による業務が増えており、正確なスキルが身に付きにくい状況である
		私	研修（CAT,ILL）をもっと短い日数で数多く開催してもらえると参加しやすい。さらに地方でも開催してもらえるとありがたい。1回で理解できない部分もあるので復習のため2-3回で同じ研修を受けたい。
			研修に参加することが難しく、目録データを利用させていただくばかりで、新規作成を行なったりすることが出来ない状態です。今後、スキルアップをどのように行なっていくのかが課題となっております。
			委託請負スタッフのスキル向上と技術の継承が今後の課題と考えられる。NIIは、委託・請負・派遣に対してもより幅広い講習や学習資料の提供を検討してほしい。
			システムが高度で、使いこなせるスタッフが限られてしまう。レコーディングマニュアル等をもっとわかりやすくし、民間で提供されているような図書館システムのレベル並みの使いやすさを求めたいです。
	他	短	まだいろいろな業務に携わっていない、という経験不足もありますが、規模の異なる館が同等に参加するには、データ作成など個人の能力に負う作業は難易度が高く複雑に感じます。利用者が必要とする情報に対して作成する項目が細かく多いように思われます。
		高専	異動や図書館システムの更新による操作手順の変化などでスキルの継承がうまくいかない。Q&Aの回答を出来ればもっと早くしてほしい。
			小規模館ですとレコード調整の対応する件数が少なく、なかなか慣れません。研修も職員数が少ないためあまり受けられません。知識・経験が不十分でも使えるシステムの作成をお願いします。
		他	取り敢えず、NACSIS-CAT登録（新規書誌作成・書誌修正）のスキルを上げることが個人的な課題だと思う。また、今後、ますます増えてくると思われる電子媒体の管理についても考えていかなければならないと思う。
利用サービス	A	国	データの品質維持など含めて利用者がより使いやすいシステムの提供をよろしくお願いします。
		私	最近レンティングポリシーの記述内容が明らかに不足している参加館が散見される。複写料金や支払い方法などは最低限記入してほしい。
	B	国	サービス時間の延長及び年末年始のサービス提供を望む。
		私	各図書館では難しくなったきた目録技術の継承について、今後も一層の支援をお願いしたい。

区分	規模	種類	回答
利用サービス	A	私	1.通知書について要望があります。第四四半期の場合、請求通知、支払通知のいずれの場合でも年度会計処理の都合上、4月1日時点で通知書または通知内容を知る必要があります。従いましてアンケート3-3③にて「よく四半期の1日に受領したい」と回答しています。2.利用機関ごとの月次明細データ・月次仕訳データの使い方がわかりません。現在は当館の処理データで機関会計処理をしています。この点についてQA等で適切な処理方法を学びたいと考えています。
			・参加館の増大。特に、NDL、公立図書館（都道府県市町村立）。・ドキュメント・デリバリー・システム機能の追加（文献複写）。
			視聴覚資料（目録・作成）の研修会を開催してほしい。また、視聴覚の発売、販売がさまざまであるため、同一かどうかの判断基準が難しい。雑誌書誌の修正について参加館できちんと実施されていない現状があり、品質にかなりのばらつきがある。
	C	国	NACSIS-CAT/ILLシステムの稼働時間の延長を望む。20時では、早すぎる。
			システムのバックアップができる設備を西日本につくるのは難しいでしょうか。
			特にございませんが、近日中の震災後の計画停電によるサーバーダウンにより、思ったとおりの書誌のダウンロードができずに業務上苦労しております。そちらのサーバーのありがたみを感じつつ、早く正常通りの稼動に戻れる環境になるよう願っております。蛇足でした、失礼いたします。
			どのような人員が配置されているのか分からないが、特に大学の学部図書室作成の書誌に稚拙なものが見受けられる。そのような参加館とは、やはりレコード調整も不調に終わることが多い（根本的に話しがかみ合わない）。直接図書室とやりとりをするのではなく、本館（図書館）にレコード調整の窓口を一本化して欲しいと切に願っている次第です。
		公	いつもCAT/ILLを利用させていただき、非常に助かっております。しかし、コーディングマニュアルも更新が難しいようですしNACSIS-CAT/ILLを管理するための人が足りないのではと感じる時があります。人手がありスピーティに対応して頂ければと思います。
			担当職員の学習意欲にもよりますが、NIIの様々な新事業や便利な新ツールについて、担当職員がすぐ気付けるような方法（例：メール）で、紹介・周知・提供していただけると、特に当館のような非常勤1名体制の図書館は非常に助かります。
		私	NACSIS以外の書誌データとの連動が可能になれば良い。
			NACSIS使用時間の延長希望
			JP,TRCの書誌を流用した場合、修正せずにそのままNII書誌にしている場合が多いので、流用した書誌をNIIのルールに修正して書誌登録することを徹底してほしいと思います。紙媒体以外の資料のマニュアルについて整備をお願いします。
			書誌データベースのミラーリングをお願いします（第1サーバが故障した場合、もしくはアクセスできない場合、第2サーバにアクセスできるようにお願いします）
			NACSIS-CATを利用できる日を増やしてほしい（休日出勤が増えているため、休日もNACSIS-CATを利用できるようにしてほしい）電子媒体の管理について、統一化した規制がほしい。変遷マップを分かりやすい所に表示してほしい。
			15実時間の確保のため、祝日に授業を行うことが増えています。祝日に業務をとめるのをできるだけ避けていただけると助かります。

区分	規模	種類	回答
利用サービス	D	国	サービス時間を延長を望む（平日21時～22時まで）。
			NACSIS-CAT/ILL業務は学術情報基盤の維持・発展に関する重要なため、業務に支障ないよう十分な人員配置を望む。
			目録データ以上に、ILL料金相殺システムについて、全国の大学が依存している現状で、今回の計画停電等、システム停止の影響はあらためて、大きいと感じている。
		私	NACSIS-CAT/ILLの利用時間を21時までに延長していただけたらと思います。
			今回は電力の問題で困難かもしれませんが、災害時は積極的な公開・継続（特にフルテキストデータベース）を望んでおります。
	他	短	レコード調整連絡ツールの各機関メールアドレス入力を促進してほしい。
			今後、国立国会図書館との目録の統合化等を進めてほしい
		高専	OPACにて検索時で、検索項目を増やしてほしい。例えば、PTBL　で検索でき
			相殺サービス請求の納入期限を延長して欲しい。平成22年度第3四半期の請求通知書の受領日が1月11日で遅かった。
			NACSIS-CAT/ILLのホームページが使いにくい。必要なリンク先やダウンロードデータへ一度で到達できない。担当者が必要なのは、お知らせ、マニュアル、ダウンロードデータの3つなので、一度で到達できるリンクがほしい。できれば担当者向けのページをつくってほしい。CiNiiのフルテキストへの到達でも、雑誌の巻号リストから探す場合、巻号、出版年月日本文提供条件とそれぞれにリンクがあるが、そこを押したら何が出てくるのかが、その画面でわかれば、3つとも押して試さなくてもすむと思う。
		他	ILLレンディングポリシー欄に「送付方法」（メール便or郵便）を明記してほしい。納期の目安がわかるため）
その他	A	国	今回のアンケートを通して、知らない専門知識が多いと改めて感じた。
			1.全般について1-1. CAT/ILLに関する概要をお答え下さい。④年間整理冊数↑この冊数は、平成21年度、補助金による遡及を含んでおり、例年より大幅に冊数が多くなっております。
			目録担当者の人数・勤務時間およびILL担当者の人数・勤務時間については各一人ではなくて同一人である。業務全般を担当している。
			今回の計画停電によるサービス停止などから、東日本以外に西日本にも拠点を作って、リスクを分散しておいたほうがいいのではないかと思いました。
			書類作成のスキルをどう継承するのか。委託がすすむほど、図書館内に目録のスキルは残らない。
	B	国	全国の図書館業務が滞らないように，災害時への対策を講じていただきたい。
		私	極力、送料がかからないよう依頼館を決めている。
			このアンケートについて、回答についての説明がWEB上にあるならきちんと指示していただきたい。または説明を文書で行っていただきたい。非常に困惑します。
	C	国	当館は、利用者数、蔵書数が他大学と比較して、圧倒的に少ないので、ILLでの貸借、複写に頼らざるを得ない部分が多い。それでも電子ジャーナルの普及により、オンラインでの閲覧可能の文献により、年々ILLの件数は減少している。利用者には利便性という点で評価されていると思う。ILL業務とともにEJ・Ebookの管理も加わり、図書館業務も多岐多様に変化している。日頃の業務は細分化されて、担当外のポジションについては理解しにくい部分もあり、1館のみならず、全体の協力体制が必要なのではないかと思う。今回のアンケートは、NIIの目録作成やILLに関して新しい発見をもたらした。今後、さらに機能を活用していきたいと考えている。

区分	規模	種類	回答
その他	C	私	NACSIS-CAT/ILLの業務ができるP.C.が各1台ずつなので、作業量が多い時はかなり厳しい状況です
			業務分析表において私立大学平均値と差異があるものについては検討課題とすることがある。
			中小規模図書館では、目録等の作業にかけられる人数が少ない。
			主担当が1人のため、目録情報の正確性などを確認するすべがない。目録業務研修の応用編や他大学の方と目録情報に関して情報交換でできる場所があれば業務の効率化も実現できると感じている。
	D	公	当館においては、目録、とりわけ新規作成業務について、なかなか習熟した職員が育たないという現状にあります。設問：2－3③にて「3名」と回答させていただきましたが、熟達度でいうならば「0名」と回答するべきかもしれません。個人レベルでの研鑽を積む努力は不可欠ですが、実情に沿う研修等の支援体制を今後ともよろしくお願いいたします。
			今回の地震に関連して、計画停電の対応でサービス停止は理解できますが、ホームページが動いているなら全サービス停止は避けてほしい。webcatは計画停電を行っていない時間帯は稼働するようにしてほしい。
			図書館職員の数も減っている近年、目録のみに業務を限定することは不可能である。web上の資源を利用すれば書誌の特定は容易になっているため、目録作業の簡素化につながるよう規定を見直していただきたい。
		私	NACSIS－CATの書誌データ、いつも利用させていただき、ありがとうございます。
			各大学図書館は、人員削減等で目録の精度の低下等の問題を抱えています。NIIも予算削減や地震の影響等で厳しい面も多いと思いますが、頼りになるのはNIIという信頼度がありますので、NIIを中心としての活動に期待しています。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。
			当館は外国雑誌データベースEBSCOの契約のみで、外国雑誌購読により付いてくるオンラインサービスは未整備のため利用できておりません。 問い合わせ等に毎回”親切・丁寧”に対応頂きありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
			ILLの「業務分析表」について、相手館の確認不足で（禁帯出や当館にない資料等）謝絶する場合が多いにも関わらず、指標になっているのが納得できない。
			この度の大地震による停電により、本学図書館の業務は、あらゆる面でNIIの各種サービスに、大きく依存していることを、改めて再認識しました。
			少人数運営館であるため、他業務との兼ね合いから目録作業についての知識の十分な習得とその伝達・継承に時間を割くことができない。そのため、職員の入れ替わりに伴い目録の品質が低下する恐れがあり、現在の業務負担を変えずに今後の目録作業スキル及び目録品質を維持していくことが課題である。
			小規模館のため、ILLを始めとするあらゆる業務もごく僅か、予算の関係でシステム環境の整備も微々たるものしかない上に、人員も少なく、日々の業務をこなすのが精一杯という状況。そのため、講習会などに参加することも最低限で、あらゆる情報や知識不足も否めず、大規模館を基準とした様々な要求に対応ができないのが現状。大規模と小規模館の差が大きすぎるため、その差をどう埋めていけるのかが、小規模館の課題と思う。

区分	規模	種類	回答
その他	D	私	NIIシステムは、国内図書館等の情報資源を有効に活用することに重要な役割を果たしていると思います。現在、特に問題を感じていません。今後ともよろしくお願い申し上げます
	他	私	NACSIS-CATについては、図書館業務において、大いに活用させていただいております。
		短	この欄に書くようなことを日ごろ思いついたとき、要望などをいっていく先が常時あってほしい思います。私が知らないだけでもうあるのかもしれませんが。
			日ごろ電話での質問にもとても丁寧に対応していただきまして感謝しております。利用したことのあるサービスについては、大変役に立っております。説明文などもとても丁寧でわかりやすいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
			何事も精通することだと思う。そのためには、あらゆる情報は欠くことができないもの。しかし、大学図書館の一人体制下における庶務、整理、閲覧を運用するには時間が足りないのが現状である。自己研鑽のためには、有効な図書館業務全般に通ずる情報や研修会が待たれる。少数館への支援に通ずるよう、今後ともよろしくご検討いただければ幸いです。
			現在、当館におけるNACSIS-CATの利用は所蔵登録のみであるが、新規目録作成に積極的に取り組んでいくべきだと考えている。
			司書過程を修了していても、目録作業を忘れてしまった図書館員は多いと思います。そう言った方々に適切な研修を行ってほしいです。貴所の文書や記述は、長年目録に従事している方にしかわからないのではないでしょうか？
			NACSIS-CAT/ILLとも大きな大学図書館のみならず、本学のような小さな図書館にもたいへん有効なシステムだと感謝しています。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。
			現在図書館システムコンピュータ化の途中であり、NACSIS-CAT/ILLの参加館ではあるが、実質業務としては参加できていない状況ですので、回答できる箇所のみ回答いたしました。
		高専	同一のシステムを協同で利用している以上各担当者には同程度の意識や知識が求められると思いますが、特に当館を含めた小規模館においては担当者の十分な理解が得られていないことを実感します。引継ぎや積極的な自主学習など各参加館での努力が要されることはもちろんですが、基本的なことも含めたより一層のサポートを願えればと考えます
		他	課題：ILL、複写業務でのDDS導入について
			担当者1人の病院図書室です。ILL相殺を利用できるようになって、とても便利になりました。もっと多くの病院図書室が参加すればよいと思います。毎日毎日FAXで行っている図書室が多いのです。どうぞ、小規模図書室の参加の促進をお願いいたします。
			当館は元々博物館であり、博物館内の図書室としてNACSISへ参加しています。そのため、博物館業務が中心になり、NACSISの目録業務にまでなかなか手が回らないという課題があります。
			一人きりで業務すべてを行うため、間違いに気づくことができず他館に迷惑をかけてしまうことがある。その時教えられ、指摘されて勉強になるが。

巻末資料　アンケート用紙

NACSIS-CAT/ILL 参加館状況調査アンケート実施要領

平成 23 年 2 月 24 日
国立情報学研究所

１．趣旨説明

平素、国立情報学研究所で運用する NACSIS-CAT/ILL システムをご利用くださり、ありがとうございます。

本システムは、サービスを開始した 1985 年以来約 25 年が経過し、その間に書誌件数は 1,000 万件、所蔵件数は 1 億件、参加館数 1,234 館と大幅に規模を拡大してきました。当初、国立大学附属図書館を中心とした参加館により運用をしていましたが、現在では、私立・公立大学および短期大学・研究機関等に広がり、様々な規模の参加館にご利用いただいています。

また、この間に図書館をめぐる情報環境は大きく変化しました。情報環境の変化とサービス規模拡大に伴う運用体制の変化に対応することが、平成 21 年 3 月発行の『次世代目録所在サービスの在り方について（最終報告）』（http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf 以下、『最終報告書』）でも求められています。

このたび、『最終報告書』の提言を受け、より広範囲の参加機関の状況を調査することとしました。特に、中規模・小規模の参加館が直面している課題を把握することを本アンケートの目的の一つといたします。年度末のお忙しいところ恐縮ですが、趣旨をご理解のうえご回答くださいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、ご回答にあたっては、館全体としての方針・現状をお答えください。回答内容は今後の検討のために利用します。また、アンケート結果は集計の上、ウェブサイト等で公開し、本研究所のイベント等で報告いたしますのでご了承ください。

２．アンケート実施概要

（１）調査時点

アンケート中、特に注記がない場合は、平成 23 年 3 月 1 日時点の内容についてお答えください。

（２）実施期間

平成 23 年 3 月 8 日（火）9:00 ～ 3 月 22 日（火） 17:00

（３）回答先

下記の URL にアクセスしてご回答ください。

URL:http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/project/enq2011/index.html

（4）回答とりまとめ単位

参加組織番号（FA 番号）ごとにご回答ください。

※ただし，目録業務を学内で集中して行っている場合は、実際に目録業務を行っている部署が代表してご回答ください。

（5）本件問い合わせ先

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課
図書館連携チーム NACSIS-CAT/ILL 担当
TEL：03(4212)2310　　E-mail：catadm@nii.ac.jp

※なるべくメールでお問い合わせください。

（アンケート用紙）

１．全般について

１－１．CAT/ILL に関する概況をお答えください。

※複数の参加組織番号の資料を集中して作業を行っている場合、①～⑧の内容については、取りまとめて合計を記入し、以下に回答対象となるすべての参加組織番号をご記入ください。

（例）FA990010, FA990021, FA990032 の資料を、1 箇所でまとめて整理している場合、①～⑧は 3 つの合計で記入。以下に、FA990010, FA990021, FA990032 と記入。

（　　）

①目録担当者の人数

常勤職員（　　）名　非常勤職員（含派遣職員・アルバイト等）（　　）名

②目録・整理業務に従事している職員すべての週当たりの概ねの勤務総時間数（合計）をお答えください。

（　　）時間

③目録業務の外部委託をおこないましたか。※平成 21 年度実績

○はい（業務内容　　）　○いいえ

④年間の整理冊数

（和書約　　洋書約　　）冊　※平成 21 年度実績

上記のうち、図書館外での作業である等の理由により、時間・人数管理をしていない外部委託作業による整理冊数

（和書約　　洋書約　　）冊　※平成 21 年度実績

⑤ILL 担当者の人数

常勤職員（　　）名　非常勤職員（含派遣職員・アルバイト等）（　　）名

⑥ILL 業務に従事している職員すべての週当たりの概ねの勤務総時間数（合計）をお答えください。

（　　）時間

⑦ILL 業務の外部委託をおこないましたか。※平成 21 年度実績

○はい（業務内容　　）　○いいえ

⑧NACSIS-ILL 経由以外も含む年間の処理件数　※平成 21 年度実績

複写依頼件数　（　　）件　貸借依頼件数（　　）件
複写受付件数　（　　）件　貸借受付件数（　　）件

１－２　使用している図書館システムについてお答えください。

①図書館システムのハードウェアの調達形態

○レンタルサーバの管理　○買取りサーバを管理　○ホスティングサービスの利用
○パーソナルコンピュータ　　○その他（　　）

②図書館システムアプリケーションの調達形態

○レンタルシステム　　○ソフトウェアの買取り　　○独自開発
○WebUIP（NII が提供しているクライアントシステム）

③クライアントメーカー製品名

（　　）社製（　　）

（例）「富士通 製 iLiswave」「NTT データ九州 製 NALIS」などのようにお書きください。

２．目録

２－１．NII が準備しているシステム等の使用状況について、お答えください。

（１）各種ツール

①NACSIS-CAT マニュアル全文検索

（http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_manu_search.html）
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

②NACSIS-CAT/ILL Q&A データベース（DB 検索、DB への質問、重複報告、修正報告）

（https://cattools.nii.ac.jp/qanda/menu.php）
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

③レコード調整連絡ツール　（http://mokuren.nii.ac.jp/recordctl/）

存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

④雑誌変遷マップ表示システム　（http://cattools.nii.ac.jp/map/utf-8.html）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

⑤WebUIP（オプションサービス　NII が提供しているクライアントシステム）
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

（２）検索サービス
⑥WebcatPlus
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

⑦WebcatPlusMinus
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

⑧Webcat
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

⑨Z39.50 接続（オプションサービス　http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/option/#4 参照）
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

⑩検索専用サーバ（オプションサービス　http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/option/#3 参照）
存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

２－２．参考図書の所有・利用状況についてお伺いします。該当するものをチェックしてください。
①『日本目録規則（NCR)』
○利用している。　（○1987 年版改訂 3 版　○それ以前の版）
○利用していない。（理由：○和書は所蔵していないため不要

○その他（　　））

②『英米目録規則第２版（AACR2）　日本語版』

○利用している。

○利用していない。（理由：○絶版のため所有していない　○英語版を利用

○洋書は所蔵していないため不要

○その他（　　））

③RDA（Resource Description and Access）

○オンライン契約している。　　○今後オンライン契約する予定

○冊子を購入予定　　○契約・購入を検討中

○よくわからない。

④コーディングマニュアル（オンライン版）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

⑤コーディングマニュアル（ルーズリーフ差替え版）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

⑥目録情報の基準（オンライン版）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

⑦目録情報の基準（冊子体）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

⑧その他に日常的に使用している目録規則類や参考資料がありましたらご記入ください。

（　　）

２－３．NACSIS-CAT の書誌作成状況について、貴館の館全体としての現状をご回答ください。

①書誌の登録・作成状況について

○所蔵登録のみを行っている。書誌の作成・修正は行っていない。→②へ

○必要に応じて、NACSIS-CAT の書誌修正は行うが、新規作成は行っていない。→②へ
（VOL の追加のみ行う場合も含む）
○必要に応じて、NACSIS-CAT の書誌の新規作成も行っている。→③へ

②書誌修正、新規作成を行っていない理由があればお書きください。
（　　）

③書誌新規作成を行うスキルのある目録担当者の人数　（　　人）

④ローカルのみでの書誌の修正・作成について
○原則として、ローカルのみでの修正・作成は行わない。
○NACSIS-CAT にヒットした書誌の修正を、ローカルのみで行うことがある。
○NACSIS-CAT に書誌がない場合、ローカルにのみ書誌を作成することがある。

⑤ローカルのみでの書誌作成や修正を行う理由、その対象となる資料があればお書きください。
（　　）

⑥図書書誌流用作成時によく利用している参照 MARC 等をご回答ください。（複数回答可）
□JPMARC　□TRCMARC　□USMARC　□USMARCX
□GPOMARC　□UKMARC　□DNMARC　□CHMARC
□KORMARC　□REMARC　□RECON　□OCLC　□HBZ

⑦著者名典拠とのリンクについて
○著者名典拠は可能な限りリンクしている（著者名典拠の新規作成も行う）
○著者名典拠があればリンクしている（著者名典拠の新規作成はしない）
○著者名典拠リンク作業はしない

⑧レコード調整件数　※平成 21 年度実績
受付件数　（　　）件　依頼件数（　　）件

⑨レコード調整依頼時の問題点は何ですか？（複数回答可）
□質問前の事前調査や依頼文の作成　□情報源の準備　□相手館の連絡先調査
□回答を得るまでに時間がかかる　□解釈の違いで修正を拒否される
□目録のルールが細かすぎる　□作成館以外に修正の権限がない
□その他（　　）

⑩レコード調整受付時の問題点は何ですか？（複数回答可）
□現物の確保・確認　□同一質問に何度も対処　□発見館修正可でも質問される

□他館の修正にもかかわらず質問される　□作成館ではないのに質問される
□解釈の違いで回答に納得を得られない　□目録のルールが細かすぎる
□作成館にすべての責任が負わされている
□その他（　　）

⑪書誌作成やレコード調整について、自由にご意見をお書きください。

（　　）

２－４．　事前登録書誌について

NII では平成 22 年 1～3 月に和図書書誌について事前登録書誌の試行を行いました。

①これについて知っていましたか。

○はい　○いいえ

②事前登録書誌について、有効だと思いますか。

○はい　○いいえ

③新刊の和図書の大多数（90%程度）について、発行から 1 週間程度で、事前登録書誌が登録されるとしたら、どのように利用しますか。

○1 週間程度ならば、登録されるまで待つ　○登録されていなかったら先に新規作成する
○その他（　　）

④事前登録書誌について、ご意見があればご記入ください。

（　　）

３．ILL について

３－１．NII が準備している各種ツール・システムの使用状況について、該当するものをチェックしてください。

①NACSIS-ILL マニュアル全文検索

存在を　○知っている ○知らなかった
利用頻度　○高　○低　○無
今後の利用　○する　○しない　○未定

②ILL 料金相殺システム

存在を　○知っている ○知らなかった
今後の利用　○している　○しない（理由：　　）　○検討中

③ISO ILL 用 WebUIP

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

３－２．参考図書の保有・活用状況についてお伺いします。該当するものをチェックしてください。

①ILL システム操作マニュアル（オンライン版）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

②ILL システム操作マニュアル（冊子体）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

③ILL システム操作マニュアル ISO-ILL プロトコル対応（オンライン版）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

④ILL システム操作マニュアル ISO-ILL プロトコル対応（冊子体）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

⑤NACSIS-ILL 状態遷移図（下敷き）

存在を　○知っている ○知らなかった

利用頻度　○高　○低　○無

今後の利用　○する　○しない　○未定

３－３．文献複写等料金相殺について、ILL 相殺システムに参加している館のみご回答ください。

①各利用機関毎の月次明細データ・月次仕訳データをウェブで公開しています。

これらのデータは毎月いつまでに必要ですか。

○当該月の翌月(　　)日まで　例：4 月の明細データを、5 月（　　）日までに

○当該月の翌月末まで　例：4 月の明細データを、5 月末までに

○四半期ごとでもよい　例：4 月の明細データを、翌四半期（7～9 月）でよい

○いつでもよい

○その他

②料金相殺結果通知書を四半期ごとに、翌四半期の初めに郵送していますが、いつまでに必要ですか？

○翌四半期第１月(　　)日まで　　例：第１四半期（4～6 月）の通知書を 7 月（　）日まで

○翌四半期第１月の末まで　　例：第１四半期（4～6 月）の通知書を 7 月末まで

○翌四半期振込日前日まで

例：債権機関（NII から大学へ入金）の場合は第１四半期（4～6 月）の通知書を 8 月 10 日まで

○いつでもよい

○その他

４．NACSIS-CAT/ILL に係る研修について

①現在の担当者のうち、研修受講済みののべ人数

目録システム講習会（図書）（　　）名

目録システム講習会（雑誌）（　　）名

ILL システム講習会（　　）名

②受講できていない場合、その理由をお答えください。　(複数回答可)

□受講希望したが、選に漏れた。

□担当者の人数が少ないので、業務上、不可能

□非正規職員のため、学内事情で認められない

□公開された資料で自習している

□その他（　　）

③NACSIS-CAT/ILL セルフラーニング教材の利用状況をお答えください。

○利用したことがある。　　→④へ

○利用したことがないが、利用してみたい。→⑤へ

○利用したことがない。→⑤へ

④利用したことがある場合、感想をお答えください。（複数回答可）→⑥へ

□役に立った　□簡単すぎた　□難しすぎた　□もっと詳しい内容がほしい

□分野・内容の拡充を希望する（具体的に：　　）

□その他（　　）

⑤利用したことがない場合、その理由をお答えください。（複数回答可）

□既に業務経験・知識が豊富　□学習したい分野・内容がない　□知らなかった

□セットアップできなかった　□その他（　　）

⑥NACSIS-CAT/ILL スキルの継承はどのように行っていますか？(複数回答可)

□外部での研修会（NII も含む）に参加　　□定期的なミーティング・勉強会

□詳細なマニュアルの作成　　□メール等での外部との情報交換

□その他（　　）

□特に行っていない

⑦NII の研修に対するご意見があれば、ご記入ください。

（　　）

５．電子情報資源の管理・提供方法について

５－１　概況

①電子ジャーナル・電子ブックの導入状況

○電子ジャーナル・電子ブックを管理・提供している

○学内の他の部署で管理・提供している

○電子ジャーナル・電子ブックは導入していない。（→５－５にお進みください。）

②タイトル数　※平成 22 年度実績

電子ジャーナル　（　　）タイトル

注）カレント分の純タイトル数。アグリゲータ提供分とのタイトル重複は無視

電子ブック　（　　）タイトル

注）前年度までの買い切りを含めた提供タイトル数

５－２　商用システム導入状況について

①リンクリゾルバ（文献情報から一次文献をナビゲートするツール）

○あり（製品名または提供ベンダー名：　　）　○なし　○検討中

②ERMS（電子情報資源管理システム）

○あり（製品名または提供ベンダー名：　　）　○なし　○検討中

③A-Z リスト（電子ジャーナル/ブックのタイトルのアルファベット順リスト）

○あり（製品名または提供ベンダー名：　　）　○なし　○検討中

④ウェブスケールディスカバリサービス（自機関提供のコンテンツ以外に、商用の学術コンテンツのインデックスを収集し、検索及びアクセスを提供するサービス。Summon、 EBSCO Discovery Service 等）

○あり（製品名または提供ベンダー名：　　）　○なし　○検討中

⑤その他（あれば簡潔に記入してください）

（　　）

５－３　電子情報資源の管理方法

①契約情報は、何によって管理していますか（複数選択可）

□図書館システム　□表計算ソフト（Excel 等）　□ERMS

□その他（　　）

②利用条件・ライセンス情報は、何によって管理していますか（複数選択可）

□図書館システム　□表計算ソフト（Excel 等）　□ERMS　□アグリーメントの保管

□その他（　　）

③フリーコンテンツ（オープンアクセスタイトルの無料コンテンツ）の管理は行っていますか？

○はい　（提供範囲・方法をお書きください　　）

○いいえ

５－４　電子情報資源の提供方法

①電子ジャーナルの提供はどのように行っていますか？

□ウェブサイトにリスト掲載　□OPAC に登録　□その他（　　）

②電子ブックの提供はどのように行っていますか？（複数回答可）

□ウェブサイトにリスト掲載　□OPAC に登録　□その他（　　）

５－５　電子情報資源について、他館へ ILL（文献複写）依頼をすることがありますか。

○はい　○いいえ

５－６　E リソースの管理・提供についてのご意見をお聞かせください。

（　　）

５－７　OCLC NetLibrary の事前書誌登録について

NII では平成 22 年 7～9 月に電子ブック書誌について事前登録書誌の試行を行いました。

①これについて知っていましたか？

○はい　○いいえ

②事前登録された OCLC NetLibrary の書誌を利用しましたか

○所蔵登録をした　○書誌をダウンロードした　○書誌作成時に流用した

○利用しなかった

③OCLC NetLibrary の事前書誌登録についてのご意見をお聞かせください。

（　　）

６．自由記述

日頃、NACSIS-CAT/ILL 業務の課題と考えていること、NII への要望など、ご意見があればご記入ください。

（　　）

参加組織名称（　　）

回答者連絡先部署（　　）

回答者氏名（　　）

回答者メールアドレス（　　）

回答者 TEL（　　）

ご協力有難うございました。